

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

福岡県 宗像市

自治体名：福岡県 宗像市

担当課名：文化スポーツ課

電話番号：0940-36-1540

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	120 km ²
人口	96,761 人 (1月末時点)
公立中学校数	7 校
公立中学校生徒数	2,779 人 (1月10日時点)
部活動数	71 部活(運動部)
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

【現状】

令和5年度に部活動ガイドラインを改定し、休日と、平日の部活動を段階的に廃止し、学校部活動から地域クラブ活動へと移行する方針を定めている。

それに伴い、中学生の新たな活動場所となる地域クラブの起ち上げを行い、地域移行後の活動場所の確保に取り組んでいる。

段階的な地域移行であるが、地域クラブ活動に参加した子どもたちからは「専門的指導を受けることが出来た」「やりたい種目に取り組めた」などの声があがっている。

【課題】

地域移行を進めていくなかで、指導者や活動場所の確保、活動場所となる学校との調整や各クラブへの活動場所の割り振り、活動場所までの移動手段、困窮世帯への支援、地域クラブのガイドラインの策定など課題がある。

また、部活動の地域移行の市の取組みについて、中学校指導者、地域の理解促進、特に小学生、中学生世代に対しての十分な説明が必要になってくる。

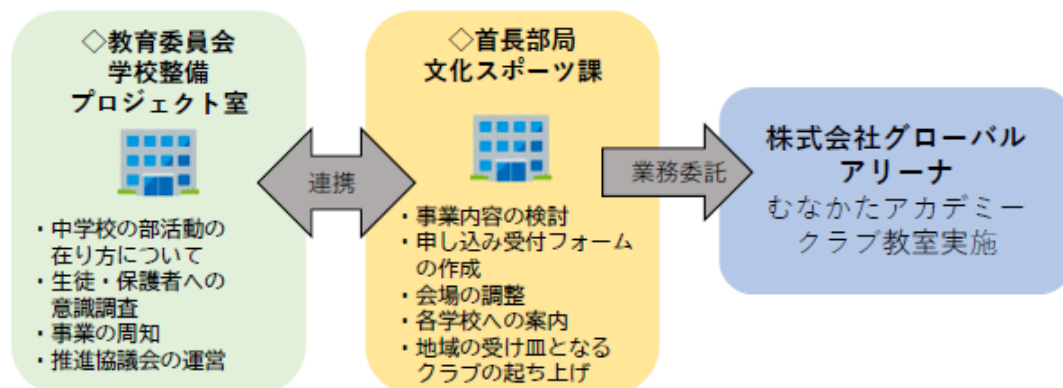
	城山			中央			日の出			自由ヶ丘			河東			衣海			大島		
	7年	8年	9年	7年	8年	9年	7年	8年	9年	7年	8年	9年	7年	8年	9年	7年	8年	9年	7年	8年	9年
陸上競技男	4	9	8	1	5	8	1	4	1	7	7	1	22	21	19	5	2	1			
陸上競技女	0	6	7	5	5	10	3	8	5	6	0	8	11	11	16	0	0	0			
軟式野球	4	4	2	0	1	3	21	4	3	5	3	1									
バスケット男	7	9	11	1	6	7	4	11	4	8	9	1	8	18	12	4	4	3			
バスケット女	3	8	2	3	3	5	6	5	2	9	9	1	10	1	2	1	2	3			
バレー男	15	4	7																1	2	4
バレー女	10	6	7	8	7	8				5	6	3	19	4	8	3	3	4	1	0	2
ソフトテニス男	13	9	9							4	8	11									
ソフトテニス女	17	11	6	17	7	7	5	5	9	5	9	8	16	8	9						
ソフトボール	2	1	4							3	6	4	19	3	14						
サッカー男	8	17	12	20	10	1	9	8	15	3	9	20	8	9	7						
サッカー女	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0									
剣道男	4	8	3	4	2	4	0	0	1	7	1	4	3	1	6						
剣道女	2	3	5	4	3	4	0	0	7	2	3	3	2	5	2						
柔道男	0	6	9	0	3	0															
柔道女	4	6	4																		
卓球男	10	9	10	6	10	15	3	10	2	6	4	10	12	5	17						
卓球女	13	17	14	3	6	5	3	0	2	9	7	19									

【課題】
学校によっては生徒数の減少等の理由により団体部活動が成り立たない状況になっている

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎首長部局(文化スポーツ課)

- ・段階的に削減される部活動を補完する教室(むなかたアカデミークラブ)を開催
- ・地域クラブの起ち上げ
- ・活動場所の割り振り、活動場所となる学校との調整
- ・民間企業や市内中学、高校との連携
- ・中学生が参加できる地域クラブリストの作成

◎教育委員会部局(学校整備プロジェクト室)

- ・部活動の在り方の整理
- ・教員への周知・依頼、生徒・保護者への周知
- ・教員、児童・生徒、保護者へのアンケート調査
- ・部活動推進協議会の運営

年間の事業スケジュール

【期間】

令和6年4月1日から令和7年3月31日

【実施内容】

- ・部活動の活動日の削減が決まった「毎月第1土曜日およびそれに続く日曜日」で1回、「毎月第3土曜日およびそれに続く日曜日」で1回、月2回開催(計24回開催)
- ・1回当たりの実施時間は3時間程度

令和6年4月	教室の開催(2回)
令和6年5月	教室の開催(2回)
令和6年6月	教室の開催(2回) 合宿体験(柔道) 宗像市中学校部活動改革推進協議会
令和6年7月	教室の開催(2回)
令和6年8月	教室の開催(2回) 中国との交流(陸上、バレーボール)
令和6年9月	教室の開催(2回)
令和6年10月	教室の開催(2回) インドとの交流事業(サッカー)
令和6年11月	教室の開催(2回) 宗像市中学校部活動改革推進協議会
令和6年12月	教室の開催(2回) 高校との連携事業(卓球)
令和7年1月	教室の開催(2回) 宗像市中学校部活動改革推進協議会
令和7年2月	教室の開催(2回)
令和7年3月	教室の開催(2回)

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	7 校(義務教育学校含む)	実施した地域クラブ総数	1 8クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1 8 クラブ（部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	6 7 人	全体の運営スタッフ数	1 1 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
むなかたアカデミッククラブ	(株)グローバルアリーナ	市立中学校運動部活動13種目	月 2 回／部活動休養日となる第 1・3 土曜日又は日曜日に実施	8:00～17:00 (3 時間程度)	前期(4～8 月) 1 年 126 人 2 年 153 人 3 年 126 人 後期 1 年 175 人 2 年 161 人 3 年 26 人	令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月	・市内中学校 ・市内体育施設	4 7 人	4 人	前期 (4～8 月) 5,000 円 後期 (9～3 月) 5,000 円	大会参加なし
宗像ストレインベースボールクラブ	地域指導者	軟式野球	週 4～5 回	8:00～19:30(3 時間程度)試合や練習試合により変わる場合あり	1 年 16 人 2 年 17 人 3 年 12 人	令和 4 年～	・市内中学校 ・市内体育施設	5 人	1 人	月会費 5,000 円	中体連：地域クラブ その他：地域クラブ

2.実証内容と成果

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
宗像 WILDCHIEFS	地域指導者	バスケットボール(男)	週 3～4 回	18:30 ～ 21:30 (3時間程度)	1年 3人 2年 7人 3年 12人	令和5年～	・市内中学校 ・市内体育施設	3人	1人	月会費 2,000 円	中体連：出場不可 その他：地域クラブ
宗像 SEAGULLS	地域指導者	バスケットボール(女)	週 3～4 回	18:30 ～ 21:30 (3時間程度)	1年 12人 2年 6人 3年 5人	令和5年～	・市内中学校 ・市内体育施設	1人	1人	月会費 2,000 円	中体連：出場不可 その他：地域クラブ
宗像ベースボールクラブ	地域指導者	軟式野球	週 4～5 回	8:00～19:30(3時間程度)試合や練習試合により変わる場合あり	1年 24人 2年 7人 3年 7人	令和5年～	・市内中学校 ・市内体育施設	5人	2人	月会費 4,000 円	中体連：地域クラブ その他：地域クラブ
宗像バレーボールスクール	地域指導者	バレーボール(女)	週 2～3 回	8:00～19:00 3時間程度)試合や練習試合により変わる場合あり	1年 6人 2年 10人 3年 13人	令和5年～	・市内中学校	6人	2人	月会費 2,000円	大会参加なし

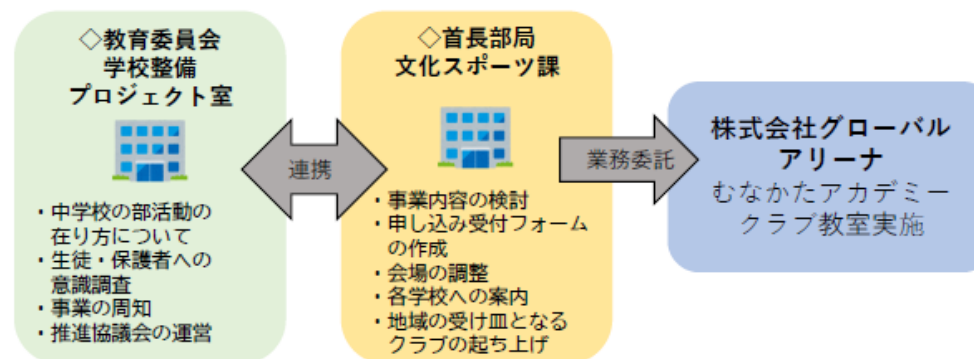
2.実証内容と成果

主な取組例

●むなかたアカデミークラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	野球、サッカー、バスケットボール、バレーボール、陸上、ソフトボール、ソフトテニス、卓球、柔道、剣道
運営団体名	(株)グローバルアリーナ
期間と日数	月 2 回／ 部活動休養日となる第 1・3 土曜日又は日曜日に実施
指導者の主な属性	地域住民
活動場所	市内中学校、市内体育施設
主な移動手段	各自活動場所に集合 (送迎バスの運行なし)
1 人あたりの参加会費等（年額）	10,000円 前期(4～8月) 5,000円 後期(9～3月) 5,000円
1 人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒 1 人あたり：800円/年 指導者 1 人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●コーディネーター①

中学校、スポーツ団体、高校・大学などと協議の上、指導者の確保および連絡調整を行う。
開催場所となる施設との連絡調整。
指導者との運営プログラムに関する協議。
個別対応が必要な参加者のサポート。

●コーディネーター②

ホームページ作成・管理。
参加者募集に関する事務（案内パンフレット作成、説明会開催）。
スマートフォン用連絡アプリケーションを通じた情報発信および参加者・保護者・指導者との連絡調整。
事業運営にかかる会計処理。
その他、クラブ運営に関する事務処理。

●統括職員

事業全体の運営管理および進捗管理を行う。

●サポートスタッフ

業務開始時、参加者募集時など繁忙時期の事務・運営のサポートを行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

■むなかたアカデミッククラブでは、委託先にコーディネーター2名とコーディネーターのサポーター1名、全体統括職員を1名配置し運営を実施。
会場確保や学校備品使用のための調整など市担当課と連携を図り実施。また、スマートフォン用連絡アプリケーション(Sgrum(スグラム))を活用し、参加者への連絡調整、活動内容の情報発信を行った。

取組の成果

- むなかたアカデミッククラブにおいては、コーディネーターと市担当課との定例会を実施した。密な連絡体制をとることにより学校施設など子どもたちの活動場所を確保でき、事業を充実したものにできた。
- 委託先である(株)グローバルアリーナの指導者ネットワークを活用し、部活動種目全種目の指導者の確保、特別教室の講師の確保を行った。
- 緊急連絡、指導者・活動場所の変更などの連絡は、特設ホームページやスマートフォン用連絡アプリケーション(Sgrum(スグラム))を効率的に活用し、迅速に周知を行うことができた。



【柔道合宿体験】



【剣道合同練習会】

コーディネーターの具体的な動きの実績

市内、中学校施設の空き状況等を市担当課と連携を図り、割り振りを行った。
運動部活動種目10種目にて、各種目の指導者の確保を行い1種目もかけることなく教室の実施につなげることができた。
参加者に対しての連絡体制を確立し、事故なく事業を実施できた。

今後の課題と対応方針

将来の平日移行を見据えて、運営団体の人員の確保が必要になる。
今年度は月2回の活動だったが、学校部活動に代わるものを準備するとすると、それ相応の実施回数が必要になってくる。今年度以上に調整業務が増えてくることが見込まれる。より市担当課と連携体制を強化する必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

■委託先の株式会社グローバルアリーナに統括コーディネーターを配置し、専門性のある指導者を確保。

■緊急対応マニュアル作成や指導者研修会を開催し、指導者の質向上を図った。

■むなかたアカデミークラブの活動において、高校、大学、地域との連携を図り、一緒に活動を行うことで指導者の質・量を確保した。

取組の成果

■むなかたアカデミークラブ各種目において指導者を3～5名程度確保した。複数人の指導者の確保を行うことにより安定的なクラブ運営を実施できた。

■指導者研修会行い、緊急時の対応方法の共有を行い、各クラブにおいて安全安心なクラブ運営を行えた。

■トップチームからの指導の機会を提供することで、子どもたちへより魅力的な活動とすることができた。

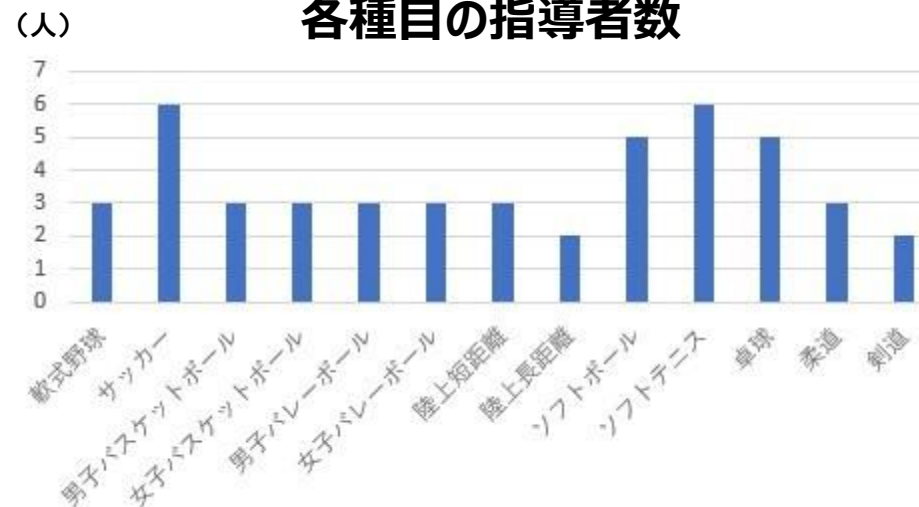
高校、大学との連携の取り組み

連携実績

- ・サッカー 東海大学付属福岡高校
- ・柔道 地域柔道クラブ
- ・剣道 地域剣道クラブ、福岡教育大学
- ・卓球 福岡常葉高校

様々な団体と連携を図ることにより指導者の質・量の確保を図った。また、多くの人から学ぶ機会を提供することができ、むなかたアカデミークラブ参加者に対して充実した活動を提供できた。

各種目の指導者数



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

■指導者研修会について

- 対象：むなかたアカデミークラブにて指導を行うもの
- 目的：安全安心なクラブ運営の実現のため
- 内容：体罰、暴言の禁止。ケガ発生時の緊急対応マニュアルの共有

■熱中症対策について

- 対象：むなかたアカデミークラブにて指導を行うもの
- 目的：夏場の安全安心なクラブ運営の実現のため
- 内容：・こまめな水分補給と休憩
 - ・体調確認の徹底
 - ・WBGT値のチェック などを行った。

指導者研修の参加実績

- ・開催日： 令和6年3月
 - ・開催回数： 1回
 - ・参加人数： 45人 ※参加できなかった指導者は個別に実施
- 「体罰・暴言等の禁止」「あいさつや返事、話の聞き方などの規範意識指導」「参加者・保護者との連絡方法」「けが時の対応方法」など指導上の留意事項に関する研修会を実施

受講者の声

■指導者研修会での声

○緊急時のマニュアルなど対応方法が作成されていることで、指導者としても安心して指導に当たることができている。

○近年の異常気象により熱中症のリスクなどが増えているため、WBGT値など具体的な数値や、対応方法の共有があったため安心して指導を行うことができた。

○熱中症対策として活動時間を夕方にするなど、柔軟な対応にて活動を実施できた。

今後の課題と対応方針

指導者研修会において、体罰・暴言の禁止について研修を行った。しかし、指導に当たる中で言葉がきつくなるところが見られた。指導に熱が入ることはよいことだが、体罰・暴言の禁止は徹底していく必要がある。指導後も改善が見られない場合は、指導者をやめていただくなど、安全、安心なクラブ運営を行う必要があると考えられる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

■東海大学付属福岡高校と連携を図り、活動場所の確保、高校生との合同練習を行った。

■スポーツ協会と連携し、活動場所となる学校の予定を共有。

■グローバルアリーナと連携し、陸上競技やテニス、サッカーなどの活動場所を確保した。また「むなかたアカデミークラブ」の運営事務局として、各クラブの運営を実施した。

取組の成果

各クラブの活動場所について、中学校だけでは限りがあるため、市内にある東海大学付属福岡高校や(株)グローバルアリーナを利用し、中学生の活動場所の確保に取り組んだ。

スポーツ協会と連携し、各中学校の利用予定を把握することで、地域クラブの活動場所の確保を行うとともに、部活動と地域クラブがバッティングすることのないよう調整を行った。

グローバルアリーナと連携することにより、中学校施設だけでなく、市内民間施設を有効活用することで、中学生の活動場所を確保した。また「むなかたアカデミークラブ」の運営事務局として各クラブの運営、指導者の確保を行うことでクラブの円滑な運営を行った。



【東海大学付属福岡高校での練習】

バス等の運行実績

市の離島である、大島や地島からの参加者へは、希望制にて渡船ターミナルから活動場所までの送迎を整備した。

バス等の運航経費・収入

離島参加者のため、移動手段を確保していたが、参加者がいなかったため運行せず。

今後の課題と対応方針

休日に加え、平日の活動も始まってくるためより学校、スポーツ協会と連携を図る必要がある。

今後、学校施設を利用する団体が増えることが見込まれるため利用場所の割り振り、学校備品の利用など整理する必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

■ むなかたアカデミークラブの活動において、国際交流事業を行い、普段の部活動では体験できなかった活動を提供。

■ むなかたアカデミークラブの活動において、宿泊合宿や高校との連携、トップチームとの交流を行い様々な体験機会を提供。

■ むなかたアカデミークラブの活動において、高校、大学との連携を図り、多様な活動機会の提供を行った。

活動の詳細			
参加人数	767人 前期：405人 後期：362人	指導者数	47人
属性	宗像市在住の中学生を対象とした、市主催の地域クラブ		
具体的な内容	■ 宗像市立中学校運動部活動10種目において市主催の地域クラブ活動を実施。 ■ 競技種目によって、国際交流事業や合宿事業を実施。 ■ アカデミークラブの活動において、高校や大学との連携を図り活動を実施。		
子供の声	・国際交流事業や、トップチームの方からの指導を受けるなど貴重な体験ができ、自分のプレーや考えの幅が広がった。 ・専門的な指導を受けることが出来た。また他校の生徒との交流ができ楽しかった。		
関係者の声	■ 地域クラブ活動への移行に伴い、参加費の負担や活動場所までの移動の負担が増すが、「国際交流」や「プロスポーツチーム」「高校生や大学生との交流」など、地域クラブならではの事業実施ができたと思う。(クラブ運営者)		
運営経費	①クラブ運営人件費 【業務内容】事務局運営、参加者募集、参加者との連絡調整、会計処理 ②指導者謝金 ③その他 消耗品費（楽譜代等）、保険料など		



クラブホームページ

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

■ 中国やインドとの交流事業を実施。これまでの部活動では体験できなかった経験を提供。

サッカー：インド、中国の中学生との国際交流試合

陸上競技：中国の中学生との合同練習

バレーボール：中国との中学生との国際交流試合

■ 宿泊合宿や高校、トップチームとの連携を実施。

宿泊合宿：柔道

高校との連携：サッカー、卓球

■ 高校施設や民間施設の利用、他校の生徒や高校生と切磋琢磨することで、月2回の活動ではあったが、学校部活動では得られない経験ができた。

今後の課題と対応方針

■ 令和7年度からは、平日も含めた本格的な地域移行が始まる。
それに伴い、地域クラブへの参加費も上昇し、参加者が地域クラブに求めるもの・期待するものも大きくなっていく。今後、その期待に応えられるようなクラブ内容にしていく必要がある。



【中国サッカーチームとの交流】



【中国バレーボールチームとの交流】

■ 令和7年度からは、平日も含め指導者確保したうえで、複数の活動場所での地域クラブ活動を実施予定。指導者の確保や、活動場所の確保など、高校や大学、市内民間施設と連携し地域で活動を支えていく仕組みが必要になる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

- 各学校の体育施設の利用について、教育委員会、各学校と連携し活動場所を確保した。
- 地域クラブへの移行に伴い、利用がなくなる部室の利用について学校と調整を行った。
- 学校備品の貸し出しを希望する地域クラブに対して、学校と調整を行い、貸し出し可能な備品の貸し出しを行った。

取組の成果

各学校の施設の利用について、スポーツ協会、教育委員会と連携し、各学校の空き状況の把握を行い、活動場所の割り振りを行った。

これまでの学校部活動とは異なるため、学校備品(バレーボール支柱、サッカーゴール、野球ベースなど)の使用について、教育委員会、文化スポーツ課、各学校にて連携を図り利用できるよう調整した。また、使われなくなった部室の利用について、試合や練習試合などで使用するテントやいすなどの置き場として地域クラブが利用できる仕組みとした。これらの取り組みにより、地域クラブの負担を減らすことができ、スムーズな地域移行へとつながることができた。



【中学校での活動の様子】

今後の課題と対応方針

今後、学校施設を利用し活動を行う地域クラブが増えることが見込まれる。学校施設の割り振りや、備品の借用、使われなくなった部室の利用の割り振りなど多くの課題がある。部室の利用においても、セキュリティの問題や責任

の所在など多くの課題が残っている。

今後、教育委員会、学校、文化スポーツ課、関係者と連携し課題の解決に取り組んでいかなければならない。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

本市は、市立中学校・義務教育学校の部活動が段階的に縮小され、地域クラブ活動に移行することに伴い、令和4年度から地域クラブの起ち上げを行ってきた。

令和5年度からは、宗像市在住の中学生を対象とした市主催の地域クラブ(むなかたアカデミッククラブ)の起ち上げを行い、市立中学校運動部活動種目において活動を実施。この部活動地域移行を「中学生のスポーツ環境の充実、スポーツ人口の拡大」の契機とするため、より充実した、魅力的な活動にしていく必要がある。

持続可能なクラブ運営を行っていくため、本クラブの企画運営は、幅広い指導者ネットワークとクラブ運営のノウハウを持つ、市内の民間企業(株式会社グローバルアリーナ)に委託をし、安定的に指導者を確保してきた。

月の「第1土・翌日曜日で1回」「第3土・翌日曜日で1回」の月2回、年間24回(各2～3時間程度)実施し、前期は405名、後期は362名の中学生が参加した。

学校間の垣根を超えた様々な生徒との交流、スポーツを通じた国際交流、小・中・高・大と世代間を超えた交流など、特色のある事業を行い、中学生のスポーツ環境の充実に努めた。

●成果の評価

令和6年2月に市立中学校・義務教育学校の全児童・生徒に対し、クラブの案内パンフレットを配布。また、市HP、小中学校に地域クラブのチラシの掲載を依頼し、地域クラブの周知を行った。

むなかたアカデミッククラブにおいては、スマートフォン用連絡アプリケーション(Sgrum(スグラム))を活用し、参加申し込み・参加費支払い・出席確認などを行った。事務作業の負担を軽減し、保護者への連絡対応を効率的に行うことができた。

むなかたアカデミッククラブの活動において、一部のクラブでは参加者が多く、1人当たりの活動時間が短くなるなど、中学生の活動が十分なものになっていない現状がある。

●今後に向けて

今後、宗像市では段階的に部活動休養日が増えていき、地域クラブへの移行が進んでいく。そのため、市内高校や大学、民間企業と連携し、指導者の確保や場所の確保を行う必要がある。

また、部活動がなくなり使わなくなる、学校施設や備品について、地域クラブへの譲渡や割り振りなど課題を整理していく必要がある。

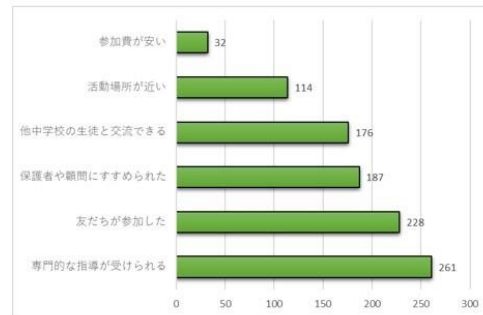
2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

中学生アンケート結果

Q 地域クラブ活動に参加した理由を教えてください(複数回答可) 568名



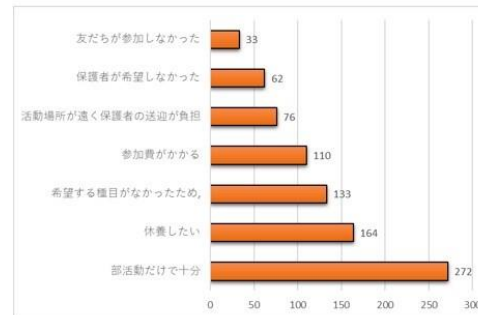
専門指導・友人参加

Q 地域クラブ活動のよさ(複数回答可) 564名



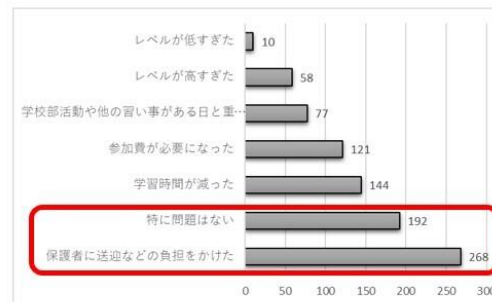
部活動にない・部活動と異なる種目

Q 地域クラブ活動に参加しなかった理由を教えてください(複数回答可) 594名



部活で十分・休養したい

Q 地域クラブ活動の課題(複数回答可) 560名



送迎負担・特になし

●参加者の声

参加した中学生

国際交流事業など部活動にはない体験ができた。言葉の壁はあるがバレーボールを通じて交流でき楽しかった。プロチームからの指導など貴重な体験もできた。

参加した中学生

学校では受けることができない専門的な指導を受けることができて良かった。ただ、会場までの移動などに時間がかかるため、開始時間や実施場所について配慮してほしい。

参加した中学生

地域移行により他校との生徒との活動ができ楽しかった。今後、活動時間が増え、より野球に没頭できる環境になるのが楽しみ。

クラブ運営者

高校生との交流や国際交流など、地域クラブならではの活動ができたのではないかと感じている。

2.実証内容と成果③

アンケート結果・広報資料

令和5年度に部活動ガイドラインを改定し、休日と、平日の部活動を段階的に廃止し、学校部活動から地域クラブ活動へと移行を進めている。段階的な地域移行であるが、教員からは「部活動の地域移行を契機に業務の負担が軽減した」「授業準備や教材準備の確保につながった」などの声をいただいた。

この事業が、教員のワークライフバランスの充実や、授業の質の向上につながっていると考えることができる。

また、子どもたちからも「専門的な指導が受けることができる」「他校の生徒との交流ができて楽しい」などの声をいただいている。



【リーフレット】

中学校教職員アンケート結果（回答者数137名）

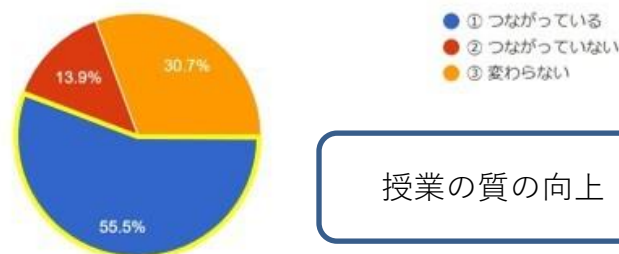
Q 部活動の地域移行は、負担感の軽減につながっていますか



ワークライフ
バランスの充実

「負担が軽減している」82.5% (R5:75.5%)

Q 部活動の地域移行は、授業準備や教材研究等の時間確保につながっていますか



授業の質の向上

「つながっている」55.5%

【教職員アンケート(令和6年11月実施)】

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【ソフトテニス教室】



【剣道教室】



【サッカー教室】



【陸上教室】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年度

協議会設置、
検討開始

宗像市運動部活動改革検討協議会を3回、宗像市活動改革検討協議会ワーキング会議を5回開催し、以下の事項を決定。

①「令和8年度中の休日部活動の地域移行完了」を目標に、令和5年9月から段階的移行を実施。

②競技種目別に受皿として必要な地域クラブ（運営・実施主体＝各クラブ）を算出し、令和5年度から7年度までの間に創設。

令和5年度

ガイドライン改訂、
生徒・保護者に周知

宗像アカデミー
教室開始

①令和5年6月に学校部活動ガイドラインを改訂。令和5年9月から、休日（土日祝）の学校部活動を段階的に地域クラブ活動に移行する取組を開始。

市主催地域クラブ「むなかたアカデミー教室」を開始。

リーフレットやホームページなどを通じて、生徒・保護者に周知。

②令和6年1月に学校部活動ガイドラインを改訂。令和6年9月から、平日の学校部活動についても段階的に地域クラブ活動に移行する取組を開始。リーフレットやホームページなどを通じて、生徒・保護者に周知。

令和6年度

むなかたアカデミー
クラブ始動

委託先「株式会社グローバルアリーナ」

- ・月2回開催(計24回開催)
- ・1回あたり3時間程度

令和7年度に
向けた事業見直し

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

宗像市の部活動改革の取組について

～子供たちがスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる環境づくり～

宗像市・宗像市教育委員会
令和6年8月

01 これまでの取組（休日の部活動改革を、先行実施）

学校部活動は、近年、やりたい部活動が中学校にない、部員数が少なく活動ができない、専門的な知識を有した指導者が見つからず望ましい指導を受けられないなど、活動を継続することが難しくなっています。また、勤務時間外の指導や大会引率など、教員の長時間勤務も課題となっています。

宗像市では、令和5年9月から、休日（土日祝）の学校部活動を段階的に地域クラブ活動に移行する取組を開始しました。下表のとおり、休日の学校部活動休業日の設定にあわせ、地域クラブ活動の場を拡大し、子供たちがスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる環境づくりをすすめています。

●休日（土日祝）の学校部活動を段階的に地域クラブ活動に移行

	これまで	令和5年9月～	令和6年度	令和7年度	令和8年度
第1土曜・翌日曜	学校部活動	地域クラブ活動	地域クラブ活動	地域クラブ活動	地域クラブ活動
第2土曜・翌日曜	学校部活動	学校部活動	学校部活動	地域クラブ活動	地域クラブ活動
第3土曜・翌日曜	学校部活動	学校部活動	地域クラブ活動	地域クラブ活動	地域クラブ活動
第4土曜・翌日曜	学校部活動	学校部活動	学校部活動	学校部活動	地域クラブ活動

※学校部活動休業日に設定している日でも、中体連主催大会及び中体連主催コンクール等がある場合は、休業日を他の日に振り替えて、学校部活動として大会参加することができます。

※令和5年度より、地域クラブ活動も中体連大会に条件付きで参加できるようになりました。

02 これからの取組（平日も含め、地域クラブ活動を拡大）

今後、平日の学校部活動についても、地域クラブ活動への移行を段階的に進めます。地域クラブ活動によるチーム練習や中体連大会への参加など、地域クラブ活動の更なる充実のため、平日の17時以降、中学校のグラウンドや体育館の貸出を、段階的にすすめていきます。

また、学校部活動は、希望する生徒による多様なスポーツ・文化芸術活動を、対外試合等をしないサークル活動とする形態に移行します。令和7年9月から、教員の勤務時間内に週2日程度実施する予定です。

●平日の学校部活動を段階的に地域クラブ活動に移行

(令和6年9月～)	月	火	水	木	金
平日の学校部活動4日	学校部活動	学校部活動	地域クラブ活動	学校部活動	学校部活動
(令和7年9月～)	月	火	水	木	金
平日の学校部活動3日	学校部活動	地域クラブ活動	学校部活動	地域クラブ活動	学校部活動
(令和9年9月～)	月	火	水	木	金
平日の学校部活動2日	学校でのサークル活動を週2日実施(予定)				
	地域クラブ活動				
	※同一の地域クラブ活動が、毎日練習するわけではありません。				

03 部活動改革の全体スケジュール

左の取組全体のスケジュールを一覧にすると下のようになります。令和6年9月時点の学年で、最終学年の夏（8月）までの期間を矢印で表しています。（土日の○数字は各月の土曜日の順）

令和6年 9月～	月	火	水	木	金	土	日
現6年生	学校部活動	学校部活動	地域クラブ活動	学校部活動	学校部活動	①地域クラブ活動	学校部活動
						②地域クラブ活動	学校部活動
						③地域クラブ活動	学校部活動
令和7年 4月～	月	火	水	木	金	土	日
現7年生	学校部活動	学校部活動	地域クラブ活動	学校部活動	学校部活動	①地域クラブ活動	学校部活動
						②地域クラブ活動	学校部活動
						③地域クラブ活動	学校部活動
令和7年 9月～	月	火	水	木	金	土	日
現8年生	学校部活動	地域クラブ活動	学校部活動	地域クラブ活動	学校部活動	①地域クラブ活動	学校部活動
						②地域クラブ活動	学校部活動
						③地域クラブ活動	学校部活動
令和8年 4月～	月	火	水	木	金	土	日
現9年生	学校部活動	地域クラブ活動	学校部活動	地域クラブ活動	学校部活動	地域クラブ活動	地域クラブ活動
令和8年 9月～	月	火	水	木	金	土	日
現10年生	学校部活動	地域クラブ活動	学校部活動	地域クラブ活動	学校部活動	地域クラブ活動	地域クラブ活動
令和9年 4月～	月	火	水	木	金	土	日
現11年生	学校部活動	地域クラブ活動	学校部活動	地域クラブ活動	学校部活動	地域クラブ活動	地域クラブ活動
令和9年 9月～	月	火	水	木	金	土	日
	学校でのサークル活動を週2日実施(予定)						
	地域クラブ活動						

※平日の「朝練習」について

現在は、顧問の先生ができる範囲で校長先生の許可を得て「朝練習」を実施しています。市教育委員会として令和7年9月以降、平日の「朝練習」を廃止することとしています。

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

福岡県 福津市

自治体名：福岡県福津市

担当課名：郷育推進課/学校教育課

電話番号：0940-62-5079

1.自治体の基本情報

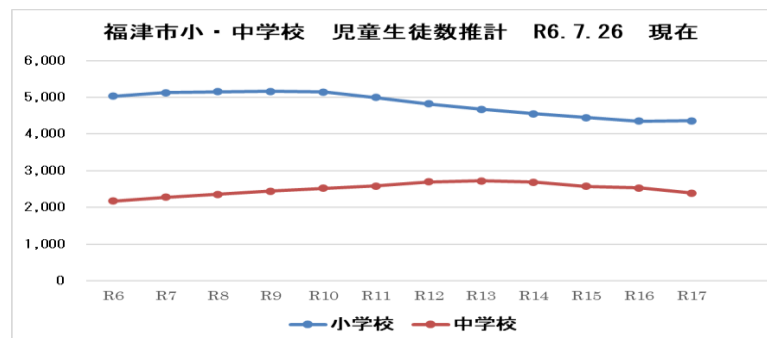
基本情報

面積	52.76 km ²
人口	69,215 人
公立中学校数	3 校
公立中学校生徒数	2,177 人
部活動数	40 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

福津市内中学校 3 校の生徒数は2,177人（R7.2月時点）であり、そのうち1校は全校生徒数1,200人を超える過大規模校である。部活動の加入率はおよそ7割であり、部員数が80人以上の部活動がある。急激な人口増加に伴う都市整備の課題から、現在の部活動を地域移行できる活動場所の確保やスポーツ施設・グラウンド等の環境整備が極めて困難な状況である。そのため、生徒の活動場所として学校施設を利用せざるを得ない現状があり、今後10年間は同じ状況が継続する見込みである。現在、希望する教職員が地域スポーツクラブの指導者として指導しているが、課題としては地域スポーツクラブの指導者の確保が必要である。また、地域

スポーツクラブ活動の運営の在り方や指導者謝金、保護者負担額など地域スポーツクラブ活動の要件・位置付けや運営体制が確立していないことも課題である。地域のスポーツ活動の指導者リストやバンクが未整備であり、子どもたちのニーズと指導者のシーズをマッチングする体制整備や人員配置もできていない状況がある。生徒や保護者のスポーツ・文化芸術への期待や希望を叶えられる組織体制を構築していく必要がある。生徒や保護者に対して、今後の部活動や地域スポーツクラブ活動についての理解や周知が不十分なため、市の部活動の地域展開に向けた方向性を明確にし、市中学生スポーツ活動推進計画の策定が急務である。



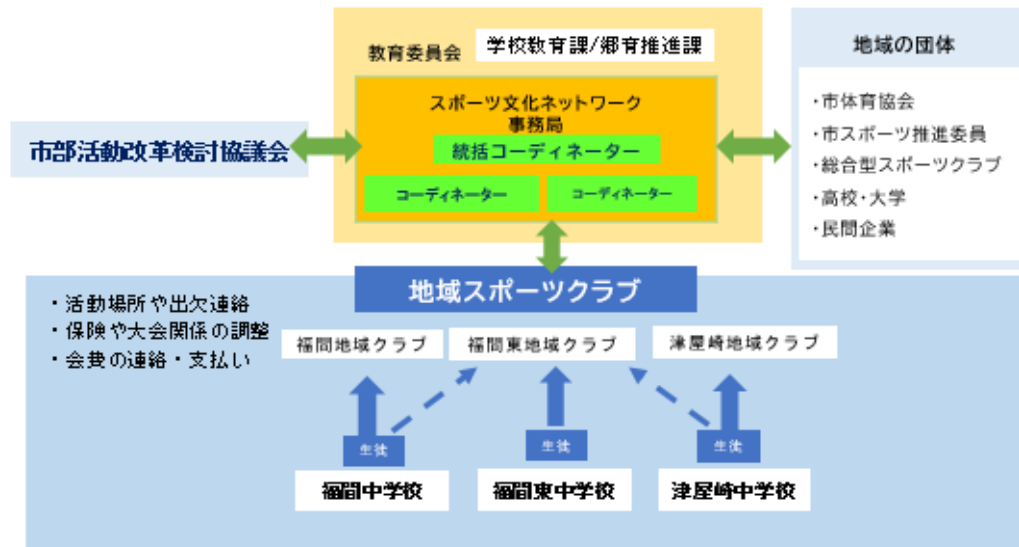
市内中学校の生徒数は、令和13年度まで増加し続ける状況があり、過大規模校が解消されないことがわかる。

出典 福津市教育委員会
児童生徒数推計
(R6.7.26)

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・学校教育課：部活動改革に係る推進計画の作成、教職員の兼職兼業に係る事務
- ・郷育推進課：部活動改革検討協議会の開催、スポーツ文化ネットワーク事務局運営

◎首長部局

- ・財政調整課：実証事業に係る予算等の執行

年間の事業スケジュール

令和6年5月	第1回協議会の開催
令和6年5月	部活動改革に向けた中学生会議
令和6年6月	第2回協議会の開催
令和6年7月	第3回協議会の開催
令和6年8月	部活動改革に向けた子ども会議
令和6年9月	第4回協議会の開催
令和6年10月	部活動改革に向けた調査 (小・中学生、保護者、教職員)
令和6年10月	第5回協議会の開催
令和6年11月	第6回協議会の開催
令和6年12月	第7回協議会の開催
令和7年1月	第8回協議会の開催
令和7年1月	コーディネーター情報交換会
令和7年2月	JSPO & 福津市指導者研修の協議

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	3校	実施した地域クラブ総数	31クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		31クラブ（31部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	61人	全体の運営スタッフ数	3人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体 種別	種目	実施回数	実施時 間帯	参加者(学 年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営ス タッフ	会費	大会参加 方法
福岡東地 域クラブ	自治体 事務局	野球	—	—	1年 21人 2年 12人 3年 8人	R6.4月- R7.3月	福岡東中 学校	2人	1人(うち 兼務1人)	—	中体連：部 活動
福岡東地 域クラブ	自治体 事務局	バスケ(男 子)	—	—	1年 7人 2年 6人 3年 11人	R6.4月- R7.3月	福岡東中 学校	1人	1人(うち 兼務1人)	—	中体連：部 活動
福岡東地 域クラブ	自治体 事務局	バスケ(女 子)	—	—	1年 1人 2年 4人 3年 0人	R6.4月- R7.3月	福岡東中 学校	1人	1人(うち 兼務1人)	—	中体連：部 活動
福岡東地 域クラブ	自治体 事務局	ソフトボー ル	—	—	1年 9人 2年 3人 3年 6人	R6.4月- R7.3月	福岡東中 学校	2人	1人(うち 兼務1人)	—	中体連：部 活動
福岡東地 域クラブ	自治体 事務局	バレー(女 子)	—	—	1年 4人 2年 5人 3年 7人	R6.4月- R7.3月	福岡東中 学校	2人	1人(うち 兼務1人)	—	中体連：部 活動

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体 種別	種目	実施回数	実施時 間帯	参加者(学 年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営ス タッフ	会費	大会参加 方法
津屋崎地 域クラブ	自治体 事務局	野球	休日月2 回	9:00- 12:00	1年 12人 2年 7人 3年 4人	R6.4月- R7.3月	津屋崎中 学校	—	1人(うち 兼務1人)	月会費 1,000円	中体連:部 活動
津屋崎地 域クラブ	自治体 事務局	サッカー	休日月2 回	9:00- 12:00	1年 8人 2年 14人 3年 4人	R6.4月- R7.3月	津屋崎中 学校	—	1人(うち 兼務1人)	月会費 1,000円	中体連:部 活動
津屋崎地 域クラブ	自治体 事務局	陸上(男 子)	休日月2 回	9:00- 12:00	1年 5人 2年 1人 3年 6人	R6.4月- R7.3月	津屋崎中 学校	—	1人(うち 兼務1人)	月会費 1,000円	中体連:部 活動
津屋崎地 域クラブ	自治体 事務局	陸上(女 子)	休日月2 回	9:00- 12:00	1年 5人 2年 1人 3年 6人	R6.4月- R7.3月	津屋崎中 学校	—	1人(うち 兼務1人)	月会費 1,000円	中体連:部 活動
津屋崎地 域クラブ	自治体 事務局	バレー(男 子)	休日月2 回	9:00- 12:00	1年 4人 2年 12人 3年 0人	R6.4月- R7.3月	津屋崎中 学校	—	1人(うち 兼務1人)	月会費 1,000円	中体連:部 活動
津屋崎地 域クラブ	自治体 事務局	バレー(女 子)	休日月2 回	9:00- 12:00	1年 5人 2年 4人 3年 2人	R6.4月- R7.3月	津屋崎中 学校	—	1人(うち 兼務1人)	月会費 1,000円	中体連:部 活動
津屋崎地 域クラブ	自治体 事務局	卓球(男 子)	休日月2 回	9:00- 12:00	1年 6人 2年 4人 3年 7人	R6.4月- R7.3月	津屋崎中 学校	—	1人(うち 兼務1人)	月会費 1,000円	中体連:部 活動
津屋崎地 域クラブ	自治体 事務局	卓球(女 子)	休日月2 回	9:00- 12:00	1年 0人 2年 7人 3年 4人	R6.4月- R7.3月	津屋崎中 学校	—	1人(うち 兼務1人)	月会費 1,000円	中体連:部 活動
津屋崎地 域クラブ	自治体 事務局	ソフトボ ール	休日月2 回	9:00- 12:00	1年 4人 2年 7人 3年 11人	R6.4月- R7.3月	津屋崎中 学校	—	1人(うち 兼務1人)	月会費 1,000円	中体連:部 活動

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体 種別	種目	実施回数	実施時 間帯	参加者(学 年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営ス タッフ	会費	大会参加 方法
津屋崎地 域クラブ	自治体 事務局	剣道(男 子)	休日月2 回	9:00- 12:00	1年 4人 2年 5人 3年 3人	R6.4月- R7.3月	津屋崎中 学校	—	1人(うち 兼務1人)	月会費 1,000円	中体連:部 活動
津屋崎地 域クラブ	自治体 事務局	剣道(女 子)	休日月2 回	9:00- 12:00	1年 1人 2年 1人 3年 1人	R6.4月- R7.3月	津屋崎中 学校	—	1人(うち 兼務1人)	月会費 1,000円	中体連:部 活動
津屋崎地 域クラブ	自治体 事務局	バスケ(男 子)	休日月2 回	9:00- 12:00	1年 6人 2年 17人 3年 5人	R6.4月- R7.3月	津屋崎中 学校	—	1人(うち 兼務1人)	月会費 1,000円	中体連:部 活動
福岡地域 クラブ	自治体 事務局	野球	—	9:00- 12:00	1年 19人 2年 5人 3年 0人	R6.4月- R7.3月	福岡中学 校	—	1人(うち 兼務1人)	—	中体連:部 活動
福岡地域 クラブ	自治体 事務局	バスケ(男 子)	—	9:00- 12:00	1年 21人 2年 11人 3年 9人	R6.4月- R7.3月	福岡中学 校	—	1人(うち 兼務1人)	—	中体連:部 活動
福岡地域 クラブ	自治体 事務局	バスケ(女 子)	—	9:00- 12:00	1年 9人 2年 9人 3年 8人	R6.4月- R7.3月	福岡中学 校	—	1人(うち 兼務1人)	—	中体連:部 活動
福岡地域 クラブ	自治体 事務局	サッカー	—	9:00- 12:00	1年 17人 2年 29人 3年 0人	R6.4月- R7.3月	福岡中学 校	—	1人(うち 兼務1人)	—	中体連:部 活動
福岡地域 クラブ	自治体 事務局	卓球(男 子)	—	9:00- 12:00	1年 18人 2年 15人 3年 0人	R6.4月- R7.3月	福岡中学 校	—	1人(うち 兼務1人)	—	中体連:部 活動

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体 種別	種目	実施回数	実施時 間帯	参加者(学 年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営ス タッフ	会費	大会参加 方法
福岡地域 クラブ	自治体 事務局	卓球(女 子)	—	—	1年 10人 2年 25人 3年 16人	R6.4月- R7.3月	福岡中学 校	—	1人(うち 兼務1人)	—	中体連:部 活動
福岡地域 クラブ	自治体 事務局	剣道(男 子)	—	—	1年 6人 2年 17人 3年 0人	R6.4月- R7.3月	福岡中学 校	—	1人(うち 兼務1人)	—	中体連:部 活動
福岡地域 クラブ	自治体 事務局	剣道(女 子)	—	—	1年 1人 2年 4人 3年 0人	R6.4月- R7.3月	福岡中学 校	—	1人(うち 兼務1人)	—	中体連:部 活動
福岡地域 クラブ	自治体 事務局	ソフトテニ ス	—	—	1年 20人 2年 19人 3年 10人	R6.4月- R7.3月	福岡中学 校	—	1人(うち 兼務1人)	—	中体連:部 活動
福岡地域 クラブ	自治体 事務局	ソフトボー ル	—	—	1年 4人 2年 11人 3年 0人	R6.4月- R7.3月	福岡中学 校	—	1人(うち 兼務1人)	—	中体連:部 活動
福岡地域 クラブ	自治体 事務局	陸上(男 子)	—	—	1年 10人 2年 13人 3年 11人	R6.4月- R7.3月	福岡中学 校	—	1人(うち 兼務1人)	—	中体連:部 活動
福岡地域 クラブ	自治体 事務局	陸上(女 子)	—	—	1年 21人 2年 4人 3年 7人	R6.4月- R7.3月	福岡中学 校	—	1人(うち 兼務1人)	—	中体連:部 活動
福岡地域 クラブ	自治体 事務局	バレー(男 子)	—	—	1年 38人 2年 10人 3年 9人	R6.4月- R7.3月	福岡中学 校	—	1人(うち 兼務1人)	—	中体連:部 活動
福岡地域 クラブ	自治体 事務局	バレー(女 子)	—	—	1年 2人 2年 9人 3年 5人	R6.4月- R7.3月	福岡中学 校	—	1人(うち 兼務1人)	—	中体連:部 活動

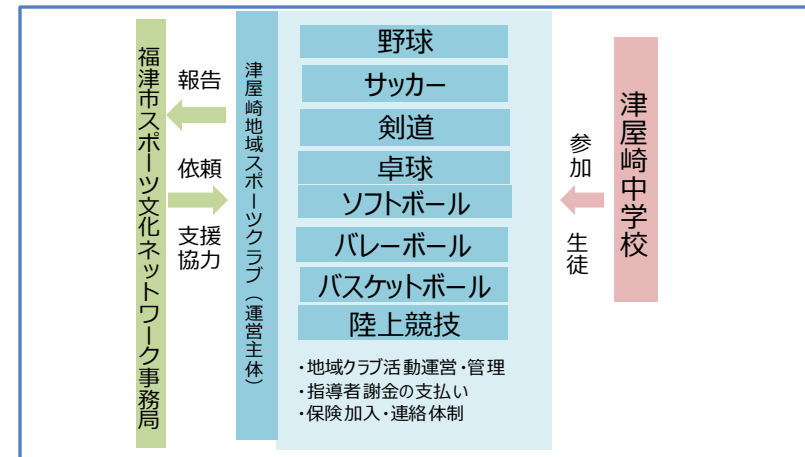
2.実証内容と成果

主な取組例

●津屋崎地域クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー、野球、バレーボール、ソフトボール、卓球、剣道、陸上、バスケットボール
運営団体名	津屋崎地域スポーツクラブ
期間と日数	サッカー、野球、バレーボール、ソフトボール、卓球、剣道、陸上、バスケットボール： R6.4月26日～R7.3月31日 月2回程度
指導者の主な属性	兼職兼業による教職員
活動場所	津屋崎中学校
主な移動手段	徒歩
1人あたりの参加会費等（年額）	12,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者

役割：参加会費や保険料等の集金、指導者への謝金等の支払いを行う。

●主任指導者 1名

役割：競技指導や引率等を行う。

●運営補助者 1名

役割：練習スケジュールや活動場所の連絡調整を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○市教育委員会内にスポーツ文化ネットワーク事務局を設置し、統括コーディネーター及びコーディネーターを3名を配置し、関係団体や教職員への地域移行に向けたヒアリングを実施し、実態把握とともに市の取組等の周知を行った。

○部活動改革検討協議会やコーディネーター情報交換会を開催し、市内の地域クラブの課題解決のために新たな部活動の構築に向けた推進計画について協議を行った。

取組の成果

○コーディネーターを運営事務局に配置したことにより、関係団体や教職員とのヒアリングや説明を円滑に行うことができた。

○コーディネーターが中心となり部活動の地域移行に向けた情報交換会を企画・運営し、16名の地域学校協働活動推進委員が参加した。各参加者は地域学校協働活動の経験や、保護者としての立場から地域移行に関する様々な意見や課題を共有し、地域学校協働活動推進委員として部活動の地域移行の中で協力できることなどを協議し、理解を深めるとともに、効果的な連携を図ることができた。

○部活動改革検討協議会から中学生スポーツ・文化芸術活動の活性化に向けた提言を受け、市認定地域クラブの創設とともに中学生スポーツ・文化芸術活動推進計画を策定した。



コーディネーターの具体的な動きの実績

【スポーツ文化コーディネーター（統括を含む）】

- ・市内中学校部活動の全顧問に課題等のヒアリング・説明等を実施
- ・体育協会や社会体育団体の指導者に部活動の地域移行の説明を実施
- ・地域クラブ会費の回収や指導者謝金の支払い及び参加者の出欠、指導者勤務管理等のアプリや参加者募集に関する準備を行った。

今後の課題と対応方針

- 市認定地域クラブ活動の要件等を踏まえ、地域クラブへの生徒のニーズと指導者のシーズのマッチングや公的支援策の検討が必要である。
- コーディネート業務を担う人材の発掘・育成や持続可能な運営ができるよう関係団体や企業との連携やネットワークの構築が必要である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

- 福津市では、市認定地域クラブの創設に向けて、指導者の要件に市主催研修会の受講を位置付けた。そのため、市認定指導者研修の内容について、JSPOと協議を行った。
- JSPOより、公認スポーツ指導者育成の基本コンセプトやコア・カリキュラム等の説明を受け、福津市の指導者研修のカリキュラムを検討した。

指導者の要件

- 市認定クラブ活動において指導することができる指導者等は、市スポーツ文化ネットワーク事務局が指定する指導者研修を受講し、市指導者バンクに登録した者とする。
- 指導者等は、関係団体が主催する研修会に積極的に参加し、技能等の指導のみならず、発達の段階や成長期における体と心の状態等に関するものを含め、安全・健康管理等の面に配慮でき知識の習得に努めるものとする。

取組の成果

- 福津市の現状では、兼職兼業による教職員の指導者が53名であり、教職員、一般、有資格者など、指導者に応じた指導者研修カリキュラムの構築が必要であることから、研修の在り方について年度内に方向性を確定する予定である。
- 子どもたちの活動を止めないためにも、4月から市認定地域クラブ活動ができるように研修カリキュラムを確立するまで、仮認定研修としてのオンライン研修などを想定している。

今後の課題と対応方針

- 市認定研修会だけではなく、JSPO公認指導者研修や県主催の指導者研修会の情報発信に取り組み、指導者育成と発掘を行い、指導者の質と量の確保に努める。



【JSPOと福津市指導者研修に向けた協議】R7.2.1

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- 学校部活動と連携して進めていくため、中学校長会、体育協会、社会体育団体等に対して、本市の取組及び今後の見通し等の説明を実施。
- 未来共創センター、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ団体への受け入れ可能なスポーツクラブの調査を実施。

取組の成果

- 中学校校長会に部活動の地域移行に向けて協力を求めたうえで、市内中学校の生徒に対して地域クラブ会員募集の案内を行った。
- 地域のスポーツ団体の協力を得て、地域クラブ受け入れ可能なクラブ（19クラブ）、指導者派遣が可能なクラブ（9クラブ）の把握を行った。（R6.5月）
- 近隣の高校との連携について依頼を行った。

今後の課題と対応方針

- 生徒のニーズに応じて、競技団体や総合型地域スポーツクラブ、民間事業者等の多様な団体に参画してもらう必要があるため、更なる連携強化を図る。
- 運営の効率化や活動場所の拡大に向けて、民間企業や近隣市町との連携を深めるよう努める。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項	各自治体の役割	移動手段	事務局運営の方法
○試行的にエリア外の生徒の参加の受け入れを行った。 ○活動場所については、市内校長会と連携して学校を拠点として実施した。	○福津市教育委員会 ・地域クラブ運営 ・関係機関との連絡、調整 ・理解促進に向けての広報 ・コーディネーター等の配置	○エリア外からの生徒は自転車可。または保護者送迎。	○福津市教育委員会にスポーツ文化ネットワーク事務局を設置。 ○コーディネーターが関係団体等とのヒアリング、情報収集を実施。

取組の成果

○地域クラブ活動に参加した生徒は、747名であったが、そのうち2名の生徒が福津市外からの参加であり、参加したい全ての生徒を受け入れた。

○他市2名の生徒にとっては、校区ではできなかった種目の地域クラブの活動をすることができた。

今後の課題と対応方針

○休日の学校部活動を段階的に地域移行し、令和9年度末までに域内の全ての運動部活動を地域クラブ活動へ移行する。

○平日の部活動との連携や移動手段が課題である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

○「部活動改革に向けたアンケート」を小学生、中学生、保護者、教職員向けに実施した。児童・生徒のニーズや保護者の要望、教職員の声等、部活動改革に向けた実態把握ができた。また、アンケートと併せ部活動の地域移行に対する理解と周知を図るため、取り組みの経緯や市の状況を示した。

○部活動改革に向けた中学生会議や子ども会議を実施した。

「子ども会議」活動の詳細

参加人数	40人	事務局スタッフ	5人
属性	小学6年生、中学3年生、保護者		
具体的な内容	市内の公募による小学6年生20名とサポーターの中学生14名が校区ごとに、部活動への期待や願い、部活動地域移行に対する不安などをテーマに中学生のサポートを受けながら、小中学生が交流を行った。その中で、子どもたちがやってみたいことを見つけ、子どもたちの声が市部活動改革検討協議会に反映され、子どもたちがスポーツや文化・芸術に笑顔で親しむ機会と環境を創り出すことを目的とした。		
小学生の声	● 小学校の友達に今回話し合ったことを伝えたい。 ● 地域スポーツができる環境を整備してほしい。 ● 練習の質と量を高められる活動がしたい。 ● 仲良く強くなる部活動・優しく厳しい部活動		
保護者の声	● 部活動地域移行について初めて知った。 ● 地域クラブへの送迎が難しい。学校で活動をして欲しい。 ● 学校の先生から指導してもらいたい。（進路面の事が心配） ● 入りたかったバドミントン部が学校の部活動がないのでどこに行けばいいのか。		
	 		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

○「部活動改革に向けたアンケート」を実施した結果、小学生、中学生のニーズや保護者の要望、教職員の意見の把握ができ、市推進計画策定に役立てることができた。

○部活動の地域移行に向けた中学生会議では、部活動の課題や実態を把握することができ、子どもたちにとって望ましいスポーツ・文化芸術活動の機会や環境づくりに向けて部活動改革検討協議会において市の方針や目標設定するうえで有効であった。

日時 8月6日(火) 14:00~16:00
場所 津屋崎中学校(スカイルーム)

目的・経緯
全国的に生徒数の減少や教職員の働き方改革を背景に中学校の部活動を地域移行または地域連携する方針が示されました。令和5年より8年間は移行期間であり、各市町村にて実証研究事業や試行や工実を行ってまいります。本市では、今年度福津市中学校部活動改革検討協議会を設置し、子どもたちのスポーツや文化・芸術の機会の確保や環境づくりについて協議を行っています。その中で委員より、子どもたちの部活動に対する考えや思いを聞いたうえで、本市の状況に応じた部活動改革を行うという意見が出されました。そこで、子ども会連を組織し、子どもたちの部活動への期待や願いをテーマに中学生がサポートし、交流します。子どもたちの声が部活動改革検討協議会に反映され、子どもたちがスポーツや文化・芸術に実際に参加し、活躍できる環境を創り出してほしいと考えています。

内容 「子どもたちのアイデアで部活動をよりワクワクするものにしよう」

- これからの中学校の部活動はどうなるの？
- 部活動の地域移行って何？
- 小学生が中学校の部活動に期待すること
- やってみたいスポーツや吹奏楽や美術などについて語り合おう
- 中学生に部活動や地域クラブについて質問しよう
- 子どもたちの思いや願いから、スポーツや文化・芸術に親しむ機会や環境がとれる

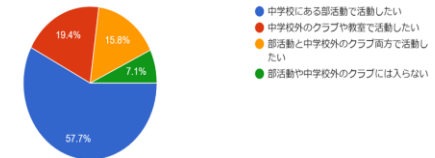
対象 市内の小6年生 (20名程度)
※申込み多数の場合は繰上となります。

その他
● 当日は上靴、筆記用具を持参してください。
● 参加児童の保護者も参加できます。
● 福間中学校、福間東中学校より、津屋崎中学校まで市バスで送迎ができます。
● 参加決定通知は7月19日までに児童に配布します。
● 右のQRコードまたはFAX(裏面)にて保護者が申込みをお願いします。

※申込みはコチラ→
〆切7月16日(火)まで

福津市教育委員会 学校教育課 担当 吉住 TEL 0940-62-5090
調査推進課 担当 高八重 TEL 0940-62-5079

問2 中学生になったら、スポーツ活動や文化芸術活動について、どのように取り組みたいですか。
1,283件の回答

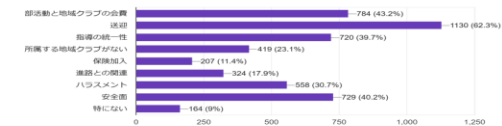


【小学生5.6年調査】 福津市部活動改革に向けたアンケート

小学校保護者 【小学校保護者】1810人

- 部活動をなくさないでほしい●早く地域移行してほしい
- 教職員は授業に専念させる
- 地域クラブへの期待①チームワーク②友達と仲良く③技術の向上
- 指導者への不安・苦情の窓口、研修、生徒理解・ハラスメント

問10 部活動の地域移行について、不安に感じること何ですか。(複数回答)
1,815件の回答



【小学生保護者 調査】

今後の課題と対応方針

○部活動改革に向けたアンケート結果では、小学生5.6年生が「部活動以外でやってみたい」スポーツ種目が21種目あった。
→地域の指導者の育成や発掘を行い、子どもたちのやってみたいスポーツ種目の地域クラブの創設を検討したい。

福津市部活動改革に向けた小学生アンケート
福津市小学5・6年生 部活動以外で「やってみたい活動」

Sports & Physical Activities	Arts & Hobbies	Science & Technology	Social & Team Activities
・スポーツ	・イラスト	・プログラミング	・皆がいい気持ちになる活動
・SUP・サーフィン	・絵画・美術	・化学	・学習会
・クライミング	・水彩画	・地学	・マネージャー
・スキー・卓球	・演劇・太鼓	・天文学	・人のお手伝い
・硬式テニス	・折り紙	・電気物理	
・サッカー・陸上	・手芸・裁縫	・物理	
・野球・空手	・珠算・調理	・理科	
・器械体操・新体操	・放送・将棋	・Outdoor Activities	
・ダンス・ラグビー	・吹奏楽	・アウトドア	
・KPOPダンス	・文芸・弁論	・海の活動	
・バドミントン	・書道・合唱	・地域環境活動	
・ハンドボール	・パズル		
・ボクシング	・ハンドベル		
・ボルダリング			
・ユニバーサルスポーツ			



【部活動改革に向けた中学生会議】

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

福津市では令和6年5月に有識者や市内関係団体、学校等で構成される「福津市部活動改革検討協議会」（以下「検討協議会」という。）を立ち上げ、市内中学校の部活動の在り方について協議を重ねてきた。子どもたちがスポーツ・文化芸術に出会う、体験する、関わる、挑戦する、極めることができる豊かな活動機会の充実のための新たなしくみづくりに着手することとした。具体的なしくみの骨格づくりに向けては、生徒・保護者・教職員を対象としたアンケート調査を実施するとともに、市内中学校生徒会・有志らによる「中学生会議」や、市内小学生（公募）による「小学生会議」を開催し、主体である子どもたちの意見・要望も踏まえ、検討を進めてきた。

部活動改革検討協議会で取りまとめられた提言を踏まえ、子どもたちが将来にわたり、スポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保することを目指し、学校部活動が生徒にとって望ましいスポーツ・文化芸術環境となるよう、適正な運営や効率的・効果的な活動の在り方について示すとともに、新たな福津市認定地域クラブを創設し、福津市中学生スポーツ文化芸術活動推進計画を策定することができた。

●成果の評価

取組の成果のひとつに、子どもたちを中心とした「子ども会議」や「中学生会議」の開催がある。児童・生徒の意見を直接伺い、それらをもとに部活動の在り方や今後の方針について協議を進めてきた。また、コミュニティ・スクールに取り組んできた強みを生かし、地域学校協働活動推進委員（地域コーディネーター）をスポーツ・文化統括コーディネーターとして配置し、ネットワーク事務局を発足した。統括コーディネーターを含めた3名のコーディネーターの持つネットワークが有効に働き、周知が広がっていくことが期待される。また、市中学生スポーツ・文化芸術活動推進計画を策定し、市の部活動及び地域移行の方針付けを明確に示すことができた。本計画の策定により、関係各者に対し、取り組みの背景や方針、具体的な取り組み内容、スケジュール等について分かりやすく周知し、理解と協力を得られるよう取り組むことを目的としている。

●今後に向けて

令和7年度の福津市認定地域クラブの創設に向け、クラブ・指導者の募集を開始する。教職員や生徒にとっては、部活動と地域クラブの違いや、地域クラブのメリット・デメリットなど、理解が十分に広がっておらず、不安の声があるのが現状である。そのため、コーディネーターを中心に、教職員、生徒、保護者に対して丁寧な説明を継続して行い、市認定地域クラブが円滑に開始・運営できるよう取り組んでいく必要がある。また、協議会において評価・検証を行い、必要に応じて推進計画や募集要項等の変更を行っていく。コミュニティ・スクールの強みを生かし、スポーツ・文化芸術活動を通してすべての子どもたちのウェルビーイングの実現を目指して引き続き取り組んでいく。

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【バスケットボールクラブのフォーメーション指導】



【「福間東グランツ」 地域クラブでの中体連参加】



【バスケットボールクラブの練習風景】



【サッカークラブの試合風景】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和6年5月

協議会設置、
検討開始



・中学生会議
・子ども会議



令和6年10月

スポーツ文化
コーディネー
ター配置



関係者へのヒアリ
ング



令和7年2月

推進計画の策定



令和7年2月

教職員、生徒、
保護者への周知

令和6年10月より、市教育委員会内にスポーツ文化ネットワーク事務局を設置し、スポーツ文化コーディネーターを3名配置した。

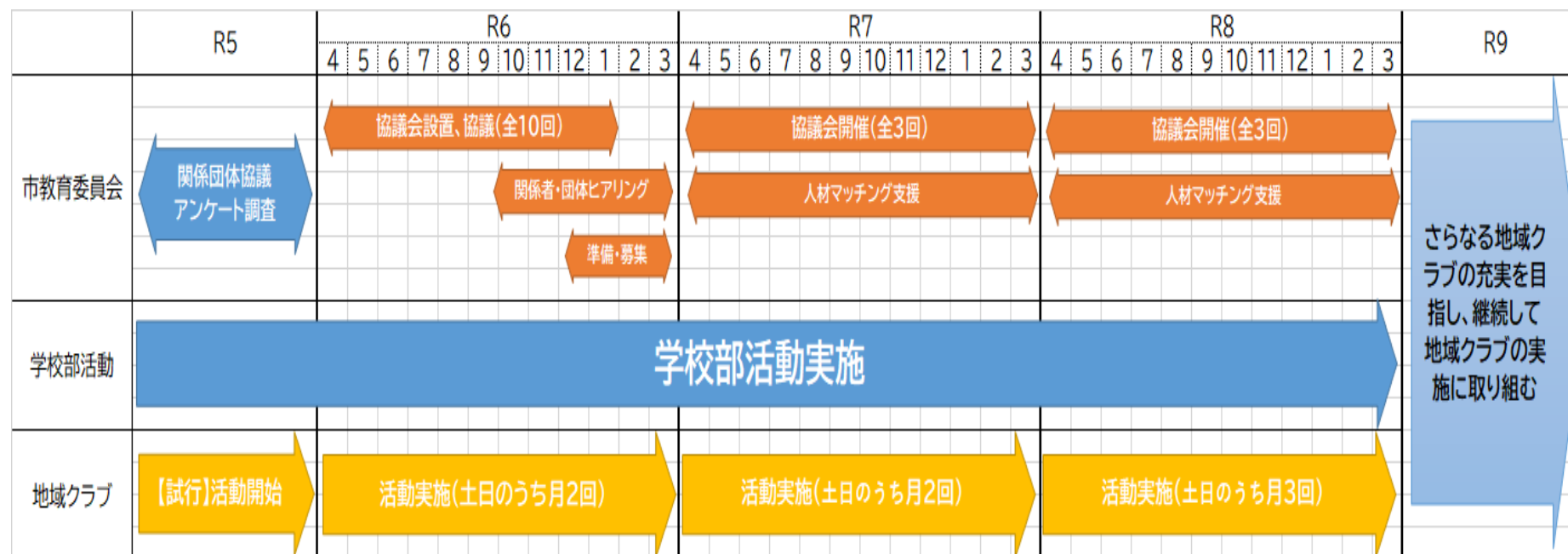
スポーツ文化コーディネーターのうち2名は、地域学校協働活動推進委員を兼務しており、これまでの経験や学校・地域との繋がりを生かしながら、教職員、保護者、地域団体等の関係者へ、現状のヒアリングを行った。また地域展開に関する関係者の不安の声や疑問等に対し、丁寧な説明を行い、市の今後の方針について周知した。

令和6年12月に福津市部活動改革検討協議会より福津市のスポーツ文化芸術活動の活性化に向けた提言を受け、「福津市スポーツ文化芸術推進計画」を策定した。

本推進計画の策定により、地域、学校、保護者、生徒等の関係者に対し、取り組みの背景や方針、具体的な取り組み内容、スケジュール等について分かりやすく周知し、理解と協力を得られるよう取り組むことを目的としている。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

福岡県 宮若市

自治体名：福岡県 宮若市

担当課名：宮若市教育委員会 学校教育課

電話番号：0949-32-1007

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	総面積139.99 km ²
人口	26,116 人
公立中学校数	2 校
公立中学校生徒数	667人
部活動数	16 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	未策定

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在、当市の運動部活動は、2つの中学校において、16の部が活動している。

近年の宮若市の児童生徒数を鑑みると、今後減少傾向はますます大きくなることが想定される。

改革推進期間である3年間で、成績や勝敗にこだわらず種目にとらわれない「身体づくり」を主体とした活動を第一に進め、同時に教職員の働き方改革の推進を、目標とし、地域展開を進める。

また、長年にわたって部活動は、学校教育の一環で運営するものという考えが生徒、保護者、地域に根付いている。今後、地域展開に当たり

部活動が教育課程外のものであることを関係者が認識することが必要であり、同時に地域展開推進にあたって学校の教職員以外の地域内の指導者の掘り起こし、確保も進めていかなければならない。

宮若市立学校児童生徒数の推移

(各年5月1日現在、指数：平成31年＝100)

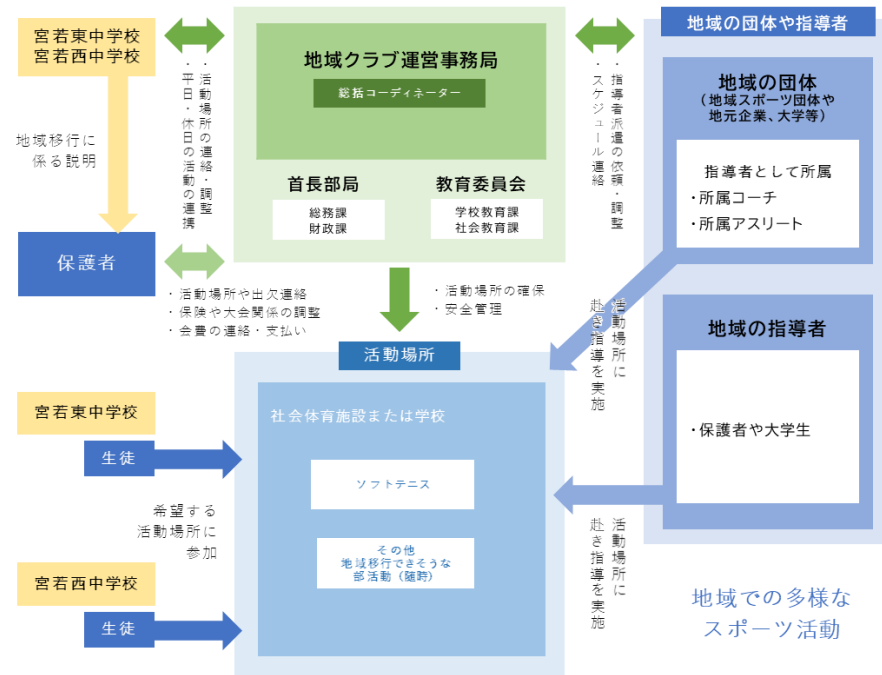
年次	小 学 校				中 学 校			
	学校数	本務教員数	児童数	児童数指数	学校数	本務教員数	生徒数	生徒数指数
令和 2 年	5	110	1,348	100	2	54	704	100
3	5	112	1,351	100	2	53	692	98
4	4	101	1,312	97	2	55	688	98
5	4	99	1,297	96	2	56	674	96
6	4	101	1,291	96	2	55	667	95

資料：学校基本調査（学校教育課）

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・学校教育課…部活動改革の主幹、学校との調整・連携、学校に関する事項について
- ・社会教育課…中学生の地域スポーツ・文化活動の環境整備

◎首長部局

- ・スポーツ推進課…中学生の地域スポーツ活動の環境整備
- ・財政課…予算措置、ふるさと納税の検討

年間の事業スケジュール

令和6年 5月	第1回課内会議の実施
令和6年 6月	第1回関係者・保護者協議会の開催
令和6年 7月	第2回関係者・指導者協議会の開催 第2回課内会議の実施
令和6年 8月	地域展開説明会の開催 地域クラブ活動開始
令和6年 12月	第1回広域会議の開催
令和7年 1月	第3回課内会議の開催
令和7年 2月	第2回広域会議の開催 関係者意識調査の実施 第1回協議会の開催

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2 校	実施した地域クラブ総数	宮若ソフトテニスクラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域展開した形のクラブ数（及び地域展開された部活動数）		4 クラブ （ソフトテニス 部活）
	B：部活動に移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	2 人	全体の運営スタッフ数	4 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
宮若ソフトテニス	宮若市教育委員会	ソフトテニス	月 2 回程度	9 時～ 12 時	中学 1 年 中学 2 年	令和 6 年 8 月～	B&Gテニスコート	2 人	4 人	月会費 0 円	中体連：部活動 その他：地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

●なし

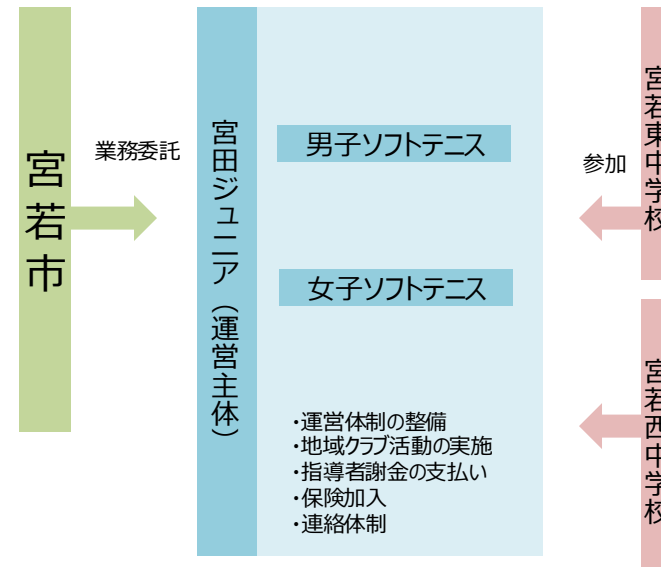
2.実証内容と成果

主な取組例

●宮若ソフトテニスクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	男子ソフトテニス 女子ソフトテニス
運営団体名	宮若ソフトテニス
期間と日数	8月31日～ 月2回程度
指導者の主な属性	競技経験者
活動場所	B&Gテニスコート
主な移動手段	自転車、送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者

役割：活動における管理者として、学校、保護者との連携を行う

●主任指導者 1名

役割：活動における主任者として、生徒への指導を行う

●運営補助者

役割：活動において、主任指導者の補助として、指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○社会教育課とともに、関係団体との効果的な連携を図り、運営団体・実施主体と中学校の連絡調整等を行う。

○運営団体・実施主体の運営体制の整備や人材の確保など、持続可能な運営ができる組織体制の整備を行う。

取組の成果

○社会教育課とともに、関係団体との効果的な連携を図り、運営団体・実施主体と中学校の連絡調整等を行うことができた。

○運営団体・実施主体の運営体制の整備や人材の確保など、課内協議や関係団体と交流し、持続可能な運営ができる組織体制の整備を考えていくことができた。また、組織体系作りや連絡調整等をより効率よく行うことができるように、総括コーディネーターの予算をつけた。

(1600円×6時間×20日×12ヶ月×1人)

コーディネーターの具体的な動きの実績

現時点で、コーディネーターは配置していない。

今後の課題と対応方針

●公的支援の対象となる地域クラブの基準がないため、今後、都道府県が示した地域スポーツクラブ活動の要件等を踏まえ、要件や基準等を調整して設定し、登録・指定等を実施する必要があると考える。

●コーディネート業務を担う人材の発掘・育成、資質向上を図る方策の検討を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

○今後の広域連携に向けて、活動場所や指導者の確保について、近隣の2町と協議した。

各自治体の役割

○宮若市教育委員会
・地域クラブ運営、予算管理
・関係機関との連絡、調整
・理解促進に向けての広報
・諸謝金等の事務処理

○小竹町教育委員会
同上

○鞍手町教育委員会
同上

※予算については生徒数比で算出。

取組の成果

○今後の広域連携に向けて、活動場所や指導者の確保について、近隣の2町と協議することができた。

今後の課題と対応方針

○地域展開に取り組む部活動数を段階的に増やし、地域クラブ活動へ展開予定の時期を設定する。
○平日の部活動との連携が課題。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組の成果

○参加した中学生を対象としたアンケートの結果、「土曜日に、B&Gのテニスコートで「地域クラブ活動」として活動したことは、どうでしたか。」という質問をした。回答者の42%が肯定的評価をしている。

その理由としては、「監督が悪い所を具体的にどうすればいいのかを教えてくれる。」「指導者が多く色々教えてもらえる。」等だった。

保護者のアンケートには、「（土曜日の活動には参加していなくても）その間に練習できるところにいたり、自主練したり、ゆっくり休んだりしています。この形に満足しています。」という記述があるように、多様な土曜日の過ごし方を自己選択している生徒も出てきた。

○教員も同様の「土曜日の活動」に関する質問に対して、回答者のうち、29%が肯定的評価をしている。

その理由としては、「専門の指導者が教えてくださるので、生徒自身の技術の向上になる。」「働き方改革に繋がり、土日もしっかりはできています。」等の記述があり、ワークライフバランスを整える一助となっている。

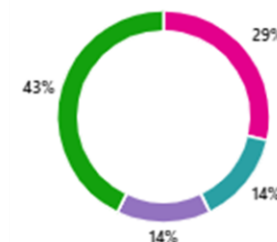
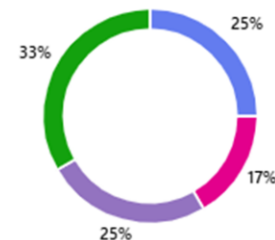
関係者アンケートより ※一部抜粋

(1) 「土曜日に、B & Gのテニスコートで「地域クラブ活動」として活動したことは、どうでしたか。」

生徒 肯定的意見 42%

学校 肯定的意見 29%

● 満足
● やや満足
● やや不満
● 不満
● どれでもない



今後の課題と対応方針

【今後の対応】

○中学生を対象としたアンケート結果によると、「移動に往復1時間半かけてする練習メニューじゃない。」「西、東と分かれて活動がしにくい。」等の課題が明らかになった。

○教員アンケートでは、「指導の仕方が、生徒、保護者の色々な不満等クレームになるので大変だ。」「地域クラブ主催大会の事務作業が学校に回ってきて別の業務が増えた。」との声もある。

○指導者や保護者は、「やる気のある生徒だけ来て欲しい。」「学校でもできる。」との声がある。

【対応方針】

○今後は、「部活動地域展開の主旨説明を十分に行う。」「教員の参加体制や保護者対応等の負担を軽減する。」「生徒にとって、多様なスポーツの機会を提供できる環境にしていく。」等の課題を改善していく。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

・地域展開に向けた体制づくり

令和5年度に「宮若市部活動改革推進協議会」を設置し、地域展開に向けた各関係団体との協議のもと方向性を検討することができた。

・広域的な取組

持続可能な地域クラブ運営に向けて、近隣の2町と協議を進めることができた。今後は、設置部活動や活動場所等について具体的なイメージ像を共有していく必要がある。また、指導者の確保等についてもさらなる具体策を検討していく必要がある。

・1部の地域スポーツクラブの実施

令和6年度より宮若ソフトテニスクラブの運用が開始されている。今後は、最新の国や県の動向を含め、地域展開の目的等について、生徒・保護者へ発信し続ける必要がある。また、教師や保護者の負担を軽減するための方策についても検討していく必要がある。

●成果の評価

◎事務局による担当者会や「宮若市部活動改革推進協議会」、1市2町による協議会の定例化を図ることができた。

◎令和6年度に生徒・教員を対象としたアンケートによると、約4割の生徒が肯定的回答をしていた。一方、教員の肯定的回答については、約3割にとどまった。

◎保護者からは、部活動改革の目的の理解が進んでいないと思われる意見も聞かれた。

●今後に向けて

・部活動地域展開総括コーディネーターの配置

市教育委員会・学校・保護者・生徒間との連絡調整や関係機関との連絡調整、指導者の研修・雇用等を行っていく上でコーディネーターの配置が必要である。現在、予算の確保はできているが、人材の確保ができていない状況にある。

・国・県の動向を通した具体的な計画作成

今後も国や県の動向を注視しながら、改革実行期間のあり方について市としてのロードマップを具体化していく必要がある。

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年

検討開始

協議会設置、会議の
実施、指導者との協
議

令和6年

教職員、生徒、
保護者への説明

令和7年

地域クラブ活動
の一部実施

検証・完全実施
方針検討

令和8年以降

地域クラブ活動
の拡大

◆担当者検討会議を設置

〈協議の参加者〉

- ・学校教育課長
- ・社会教育課長
- ・学校教育課 中学校担当
- ・社会教育課 スポーツ担当
- ・社会教育課 文化推進担当
- ・各中学校長

〈協議内容〉

- ①選定委員の選出
- ②協議会のメンバー候補の選出

◆市中学校部活動改革推進協議会の設置

〈協議会参加者〉

- ・大学教授、市体育協会、スポーツクラブ理事長、スポーツ推進委員会、市文化連盟、各中学校長、PTA会長、市事務局

◎課題

- ・持続可能な運営体制を構築していくためには、1市2町による広域的運営を視野に入れ、改革を進めていく必要がある。
- ・生徒の移手段についても保護者の理解を得る必要がある。

◆教職員への説明会を実施

◆地域指導者へのプリント作成・説明

〈内容〉

- ・練習日程
- ・参加対象者
- ・今後のスケジュール

◆保護者宛プリントの作成・配布

〈説明・協議内容〉

- ・国の動向について
- ・本市の動向について
- ・今後の動向について

◆1市2町による合同会議の実施

- ・各市町の部活動の状況について

◎課題

- ・1市2町それぞれの部活動の状況や課題が異なり、業者委託を含めた具体的なスケジュールを検討していく必要がある。

◆宮若ソフトテニスクラブの運用

○準備委員会の実施

〈参加者〉

- ・顧問代表
- ・保護者代表
- ・地域指導者
- ・市事務局

〈協議内容〉

- ・練習場所
- ・会費
- ・用具の購入分担（学校・教育委員会）
- ・中体連、練習試合の参加体制
- ・連絡方法

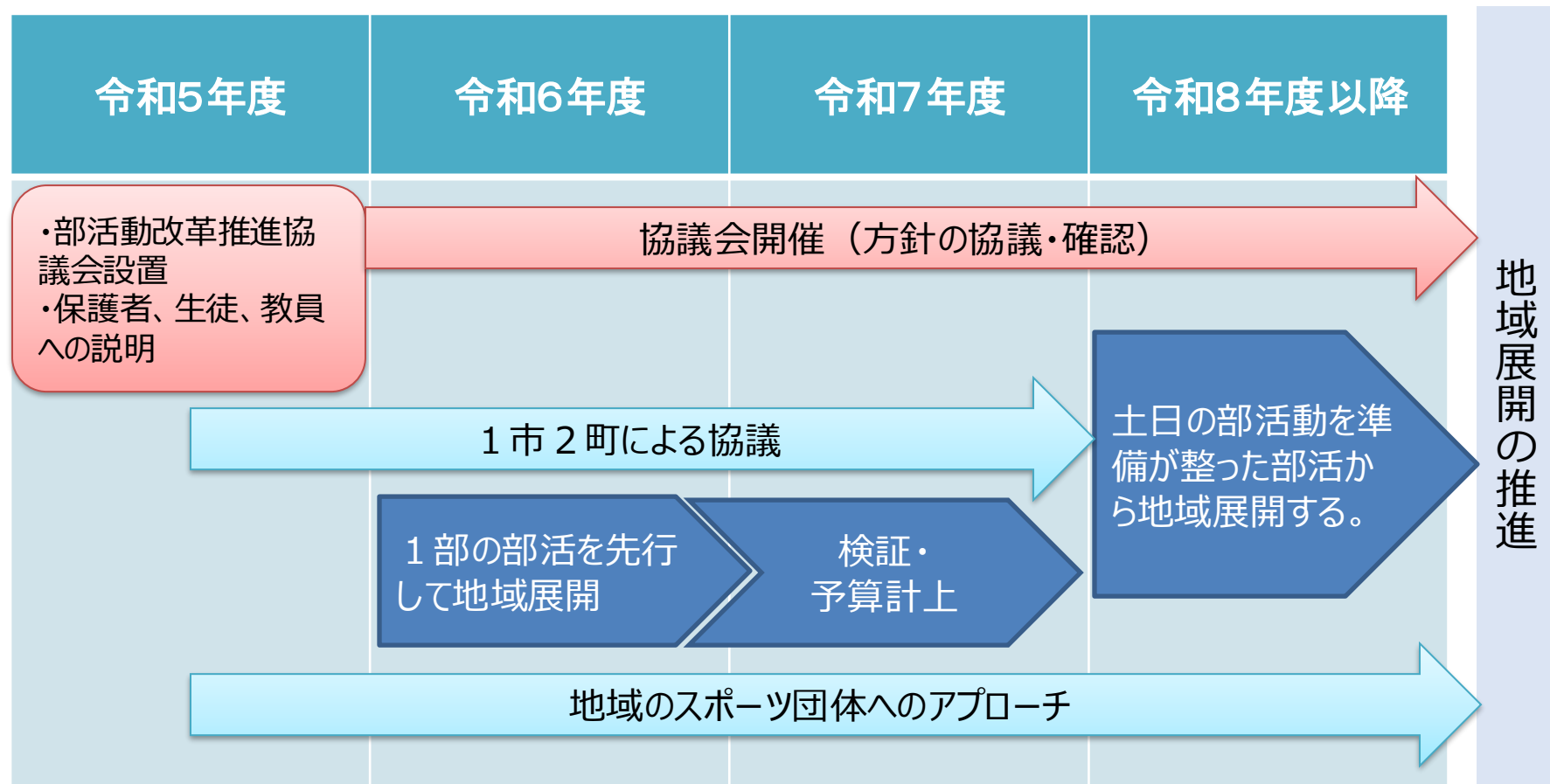
◎課題

- ・平日の学校部活動と土日の地域クラブの指導方針を合わせていく必要がある。
- ・今後の地域展開の見通しや目的について、保護者への説明を引き続き行い、理解を求める必要がある。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

宮若市 部活動改革スケジュール（案）



令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

福岡県 宇美町

自治体名：福岡県糟屋郡宇美町

担当課名：学校教育課

電話番号：092-934-2245

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	30.22 km ²
人口	約37,000 人
公立中学校数	3 校
公立中学校生徒数	1,074人
運動部活動数	28 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	令和6年度策定

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

学校部活動は、指導力の不足や校務の多さから教職員の業務の負担となっている。

また、宇美町は担当している**部活動指導に自信がない教職員が全体の約 6 割**を占めている。そのため、持続可能とはいえない状況であり、運営主体を地域に移行していく必要がある。

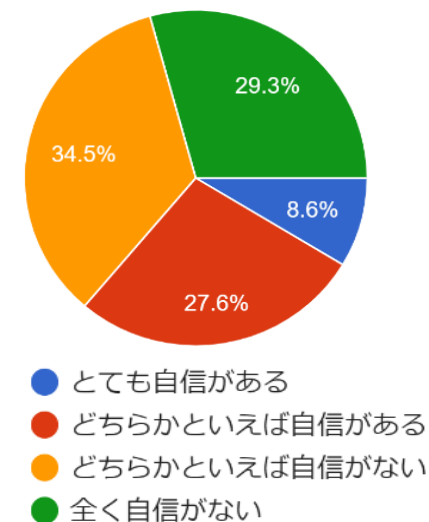
現状、3中学校各1～2部活動（**合計5部活動**）で地域移行の取組を行っている。

今後、種目の拡大をしていくうえで、新たな運営団体や、指導者の量の確保等が大きな課題である。

また、生徒が安心安全に活動をしていくためには、指導者の質の確保の面も検討していく必要がある。

部活動指導に対する自信はどの程度ですか。

58 件の回答

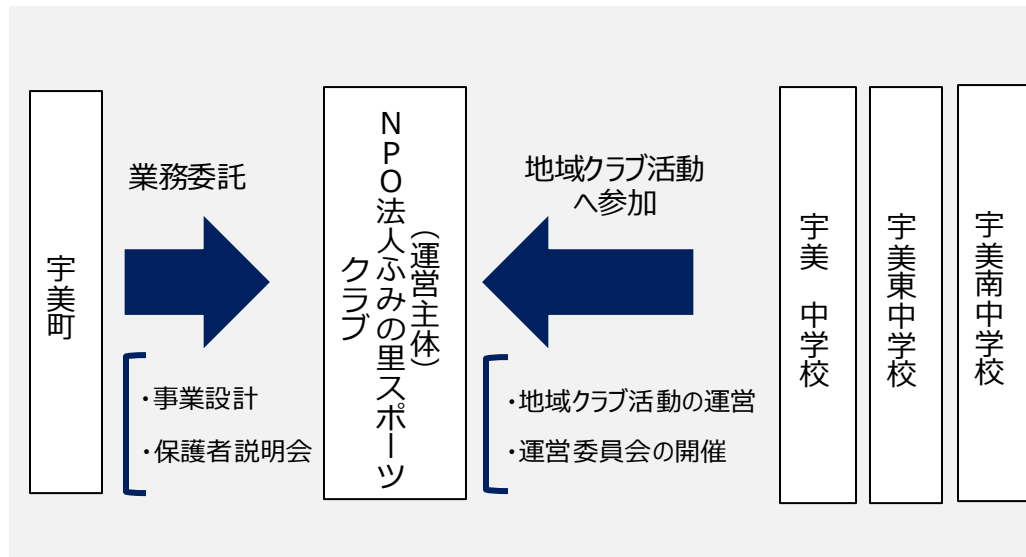


《出典》令和5年度 アンケート調査結果

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会(学校教育課：部活動所管課)

- ・NPO法人ふみの里スポーツクラブと業務委託契約を行う。
- ・社会教育課、実施団体、学校と共有・連携し、本事業を推進する。
- ・検討委員会を開催し、今後の方針、ガイドラインを策定する。

◎教育委員会（社会教育課：地域スポーツ所管課）

- ・各関係諸団体（スポーツ推進委員等）への連携、説明等を行う。
- ・町のスポーツ推進の立場で運営検討会議や検討委員会に出席し、町としての方針等の確立を図る。

年間の事業スケジュール

令和6年 4月	・指導者の確保、学校への説明 ・兼職兼業希望調査 ・運営業務委託契約
令和6年 5月	・地域クラブ活動実施 ・第1回推進検討委員会（進捗状況報告、方針の確認） ・クラブ内研修会（活動意義、スポハラ防止等）
令和6年 6月	・第1回運営等検討会議（推進計画策定協議）
令和6年 9月	・第2回推進検討委員会（推進計画策定協議、セミナーの開催について）
令和6年10月	・第2回運営等検討会議（進捗状況報告） ・セミナーの開催 ・中間検査
令和7年 2月	・第3回推進検討委員会（推進計画策定） ・第3回運営等検討会議（年間報告） ・完了検査

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	3 校	実施した地域クラブ総数	5 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		5 クラブ（5 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	12 人	全体の運営スタッフ数	1 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体	実施回数	時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
陸上 (宇美中)	ふみの里 スポーツクラブ	月 4回	午前	1年生： 3人 2年生：21人 3年生：10人	4月～3月	各中学校	3人	1人	0円	中体連：部活動 その他：地域クラブ
女子ソフトテニス (宇美東中)				1年生： 5人 2年生：16人 3年生： 2人			2人			
サッカー (宇美東中 宇美南中合同)				1年生：19人 2年生： 6人 3年生： 8人			1人			
女子ソフトテニス (宇美南中)				1年生： 3人 2年生： 7人 3年生： 6人			2人			
女子バレーボール (宇美南中)				1年生： 5人 2年生：10人 3年生： 0人			3人			

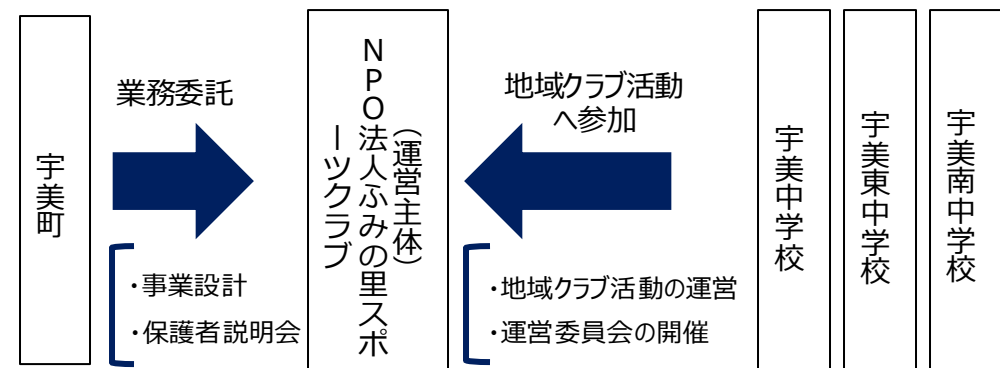
2.実証内容と成果

主な取組例

●宇美町地域クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	陸上、女子ソフトテニス、サッカー、女子バレーボール
運営団体名	NPO法人ふみの里スポーツクラブ
期間と日数	期間：4月1日～3月31日 陸上、女子ソフトテニス：月3～4回 サッカー：月2～3回 女子バレーボール：月1～2回
指導者の主な属性	会社員
活動場所	各中学校（要望があれば、町施設）
主な移動手段	徒歩、自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 統括責任者 1名
役割：会議の出席等を行う
- 指導者 各クラブ1～3名
役割：生徒への指導を行う
- 運営者 1名
役割：当日中止等の保護者連絡、謝金等の支払い事務等を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

宇美町地域クラブ活動推進検討委員会 委員名簿

令和6年5月20日現在

取組事項

- ・運営団体の選定を行う。
- ・関係者との検討委員会を定期的に行う。
- ・検討委員会で今後の地域移行の方向性について協議を行う。

取組の成果

令和5年度に各関係者との検討委員会を立ち上げた。

令和5年度は2回、令和6年度は3回行った。

検討委員会では、**宇美町の地域移行ガイドラインの策定**や地域移行セミナーを行った。

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・保護者、指導者との連絡調整
- ・保護者会、指導者会の実施
- ・練習場所の予約
- ・活動状況確認

	区 分	役 職	氏 名
1	学識経験者	福岡大学スポーツ科学部 教授	いぬい まさひろ 乾 興寛
2	スポーツ協会代表	宇美町スポーツ協会 広報部長	たにくち ゆう 谷 口 優
3	スポーツ少年団代表	宇美町スポーツ少年団 事務局長	まるやま やすお 丸 山 康夫
4	スポーツ推進委員代表	宇美町スポーツ推進委員連絡 協議会 会長	ぐんしま としひさ 郡 島 俊 久
5	NPO法人ふみの里 スポーツクラブ代表	NPO法人ふみの里スポーツ クラブ 理事長	なんり まさみ 南 里 正 美
6	町内中学校校長	宇美中学校 校長	よしざき か つ み 吉 崎 加 津 美
7	町内中学校校長	宇美東中学校 校長	いのうえ やすあき 井 上 泰 彰
8	町内中学校校長	宇美南中学校 校長	しまうら よしの 島 浦 昌 乃
9	中学校保護者代表	宇美中学校 PTA会長	ふじた よしたか 藤 田 佳 孝
10	中学校保護者代表	宇美東中学校 PTA副会長	たむら いづみ 田 村 和 泉
11	中学校保護者代表	宇美南中学校 PTA副会長	こやなぎ みよこ 小 柳 美 代 子
12	社会教育課	課長補佐	ふじさき まとし 藤 崎 賢

「出典」宇美町地域クラブ活動
推進検討委員会 委員名簿

今後の課題と対応方針

今後、種目を増やしていくには運営団体の確保と指導者の質・量の確保が必要である。

検討委員会は、令和5、6年度は地域移行ガイドラインの策定を主に行ったが、今後は活動状況の共有や問題点等を協議を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

- ・総合型地域スポーツクラブ（NPO 法人 ふみの里スポーツクラブ）や、スポーツ少年団等に指導者の紹介や推薦を依頼する。
- ・指導者の資質向上のため、研修の受講や指導者の公認資格の取得を促進する。

指導者推移

令和4年度 指導者 4名 公認資格保有者 0名

令和5年度 指導者11名 公認資格保有者 1名

令和6年度 指導者12名 公認資格保有者 2名

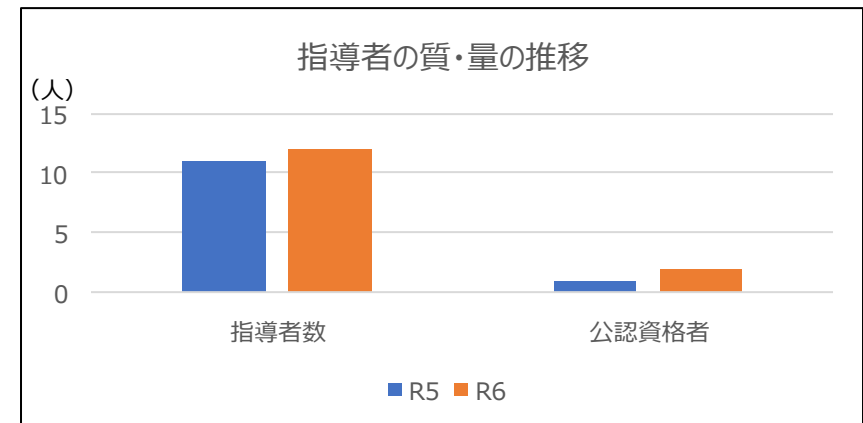
今後2名の指導者が公認資格を取得予定

取組の成果・課題

学校の地域移行希望クラブの意向をもとに、ふみの里スポーツクラブに指導者確保の依頼を行った。

教員の負担軽減や地域スポーツの発展のために、指導者を各クラブ2名以上確保できるようにした。

現在、実施しているクラブでは指導者の確保ができています。
令和5年度は実施クラブ数6、令和6年度は実施クラブ数5だが、指導者数は増えているため、活動の質は上がっている。



《出典》参考資料 R5R6推移

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

- ・地域スポーツ指導者の心得
(部活動の地域移行とは・リスクマネジメント・スポハラ理解)
- ・令和5年度の保護者、生徒アンケートの共有、振り返り
- ・各学校の体制と進捗状況の情報共有

指導者研修の参加実績

- ・開催日：8月17日
- ・開催回数：1回
- ・参加人数：地域クラブ指導者 6名

宇美中学校陸上1名、宇美東中学校女子ソフトテニス2名、
宇美南中学校女子ソフトテニス1名、
宇美南中学校女子バレーボール2名

受講者の声

指導者からの地域クラブ活動に関する悩みや意見

- ①大会前に練習時間や練習日を増やせないか。
- ②中体連など大会に出場する際のメンバー決めが難しい。
- ③顧問の考えがわからず、何を指導したらよいか探り探りとなっている。

今後の課題と対応方針

- ①地域クラブ活動は学校部活動と連携し、また、部活動ガイドラインに則って運営をしている。練習時間や練習日を増やすのではなくより効果的な指導ができるよう工夫する。
- ②メンバー決めは、部内でランク戦を行うなど、やり方を工夫するように指導者と協力して進める。
- ③顧問が部活動指導をできる場合でも、今後、顧問が異動し、部活動指導ができなくなった時に指導者が必要。今は地域クラブ活動の実施回数が少なくても、これからは地域クラブ指導者の力が必要であることを学校や指導者に理解してもらう必要がある。
ふみの里スポーツクラブとしての地域クラブ活動方針の作成・整備が必要。各種目で指導方針や選手の育成方針、クラブとしての考えを持つ必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

指導者の確保等のために総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、体育スポーツ協会、町のスポーツ所管課等との連携を強化する。

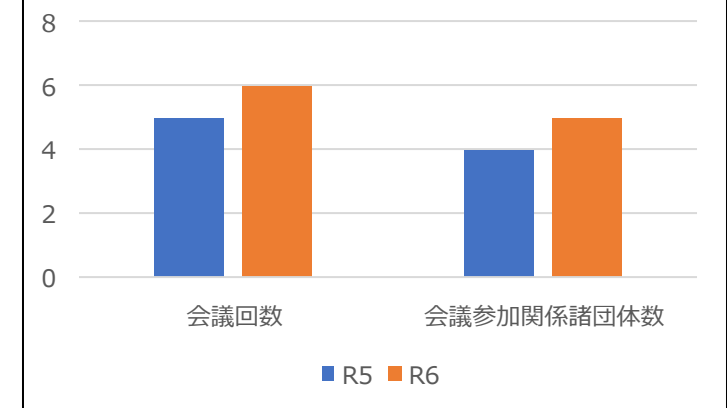
地域スポーツの関係団体に活動の周知を行い、連携を図る。

取組の成果

総合型地域スポーツクラブである「NPO法人 ふみの里スポーツクラブ」には令和4年度同様、運営業務委託を行った。

スポーツ少年団、スポーツ協会、スポーツ推進委員にも、宇美町が取り組んでいる活動の共有を行い、今後の協力体制の構築を図った。

関係諸団体との会議回数



《出典》参考資料 R5R6推移

今後の課題と対応方針

総合型地域スポーツクラブ（NPO法人 ふみの里スポーツクラブ）には運営業務委託を行い、スポーツ少年団等には定期的な会議の場を設けている。今後も活動の周知活動が続けていく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

事業の拡大、充実のため、検討委員会等で課題の解決、共有を目指す。

地域クラブ活動に携わる人（生徒・保護者・指導者）の声を聞き、活動に反映する。

活動の詳細

参加人数	121 人	指導者数	12 人
具体的な内容	宇美中学校：陸上 宇美東中学校：女子ソフトテニス、サッカー（宇美南中学校合同） 宇美南中学校：女子ソフトテニス、女子バレーボール		
子供の声	- コートやボールなど環境の良い場所で効果ある練習が出来ている - 筋トレを兼ねた遊びのようなトレーニングも楽しい - できていない所を的確に教えてくれる、楽しい - 別で連絡が必要なのが不満 - 専門的な事を教えて欲しい		
関係者の声 （保護者、指導者）	- 特に大きな問題もなく練習を行ってきた。顧問の負担軽減の面では貢献できていると思う - 子ども達のスポーツ環境整備のためには必要だと思う - やはり部活動を完全に地域移行するのは難しいのではないかと思います。学校と地域で協力しながら、部活動を継続していく形がいいと思う - 学校と一緒に地域一体で取り組むことに期待したい - そうでもない子どもや保護者の理解は得られないと思う		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

アンケートをもとに改善を行う。

改善要望	改善策
【生徒】 指導者によって指導方針や考え方が違うから戸惑ってしまう コーチの話が長い。	指導方針が変わらないよう、指導者同士の意思疎通ができているか活動を把握する。 指導者研修で改善するように指示をしている。
【指導者】 町のテニス場を均等に使わせてほしい。	今年度より、町のテニス場も活用し、練習等を行った。
【保護者】 2年生は硬式テニスのコーチ、3年生は軟式テニスのコーチと別れているのが不満。	指導方針が変わらないよう、指導者同士の意思疎通をとっていくよう指示を行った。
【顧問】 中体連の運営等も参加していただけるといい。コーチたちは協力的だが、他校の先生方が地域移行を理解していないため、周知してもらえるような広報をしてほしい。	今後は地域クラブでの中体連等の大会への出場も視野に入れて指導者の育成をしていく。他校の顧問の方々にもこれから地域クラブの参加があることを理解してもらえるように関わりを持って行くように努める。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

- ・受益者負担額の算出を行う。
- ・将来的に経済的困窮世帯の生徒が地域クラブ活動に参加する場合に、参加費等の一部または、全部を減免する仕組みの構築方法を検討する。

地域クラブに係る経費

■必要費用の分析

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	4月～1月
運営費	69,600	68,472	77,600	86,262	82,400	995,330	74,585	61,554	66,132	70,400	1,652,335
謝金	98,400	72,000	104,800	164,000	138,400	131,200	68,000	97,600	102,400	126,400	1,103,200
交通費	851	962	1,591	2,220	2,331	3,996	1,221	2,035	2,775	2,331	20,313
その他（消耗品費、保険、施設利用料、印刷代等）	103,982	36,760	87,430	125,567	5,002	19,173	840	87,250	1,430	25,826	493,260
合計	272,833	178,194	271,421	378,049	228,133	1,149,699	144,646	248,439	172,737	224,957	3,269,108

(円)

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

A	B	C	D	E (D÷A)
全体部員数	4月～1月の活動費 (謝金、旅費、消耗品等)	4月から1月 (10か月)	1月あたり	1月あたりの受 益者負担額
121人	2,369,108円	10円	236,911 円	1,958円

取組の成果

受益者負担額の算出
 1月当たり約**2,000円必要**

生活困窮世帯への支援については、
 検討委員会で策定した宇美町ガイドラインに記載している。
 (具体策はまだ示していない。)

収支バランス

受益者負担額は、1月約2,000円必要と算出したが、この額は事業者の取り分が入っていない。
 実際には+1,000円ほど必要と思われる。
 今後、平日の活動等で日数が増えるとさらに高額となる。
 補助金がなくなった場合や、町としての予算確保ができなくなった際にも、受益者負担の上限を定める必要がある。

今後の課題と対応方針

現状、宇美町は会費の徴収を行っていない。

今後も会費や受益者負担の在り方について検討していく。

生活困窮世帯への支援は、今後、会費の徴収を行う際に何らかの支援を行うとガイドラインにて記載をしている。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

＜活動内容等＞

- ・実施クラブ数は令和5年度と比較すると1クラブ減少しており、実施クラブ数の増加を第一に考えていく必要がある。
- ・実施したクラブは、滞りなく運営ができている
- ・活動の質は、合同練習や練習試合を令和5年度より多く行うことができた。
- ・指導者の質は、クラブ内研修会の実施や公認資格保有者の増加により、上がっていると考えられる。
- ・指導者の量は、令和5年度より増加したが、まだ不足している。
- ・受益者負担の在り方については、今後も検討を重ねる必要がある。

＜活動の周知やガイドラインの策定＞

- ・部活動地域移行にかかるセミナーの開催をし、地域移行の必要性の周知を行うことができた。
- ・検討委員会で宇美町ガイドラインの策定ができ、今後の指標ができた。

●成果の評価

- ・実施クラブ数は令和5年度と比較して1クラブ減少している。→×
- ・研修会や公認資格保有者の増加の面から、指導者の質は上がっている。→○
- ・指導者の量も令和5年度と比較して、上がってはいるが足りていない。→△
- ・検討委員会で宇美町ガイドラインの策定ができた。→○

●今後に向けて

①運営団体の拡充、②指導者の質・量の確保、③保護者の理解が課題となっている。

①運営団体の拡充

総合型地域スポーツクラブであるNPO法人ふみの里スポーツクラブに業務委託をしているが、クラブ数を増やすためには、運営体制や人員が足りていない。

②指導者の質・量の確保

新たなクラブを増やす指導者の量が確保できていない。また、スポーツハラスメントや体罰等の防止のために質も向上していく必要がある。

③保護者の理解

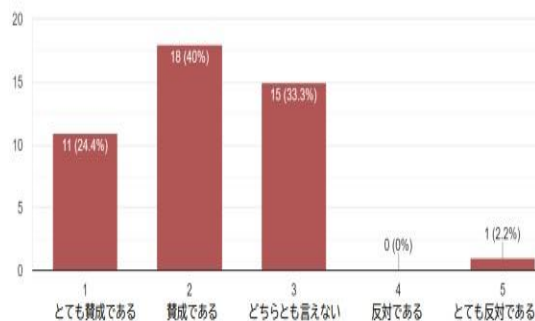
今後も保護者の理解を促す活動を行っていく必要がある。

2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

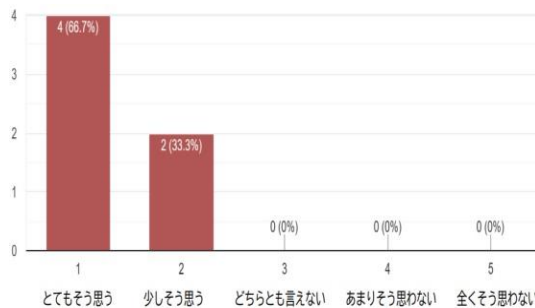
①Q.部活動が地域へ移行することについてどう思いますか？ <生徒>



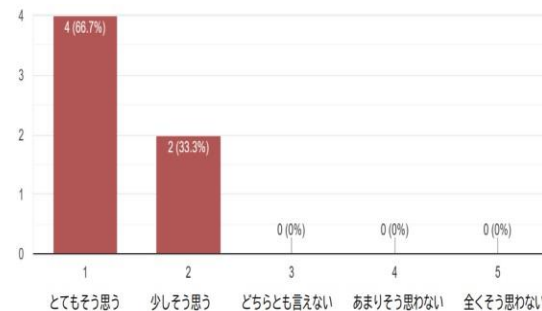
②Q.地域クラブ活動についてどの程度満足していますか？ <保護者>



③Q.地域クラブ活動は業務の負担軽減に繋がりましたか？ <顧問>



④Q.部活動が学校から地域へ移行することについてどう思いますか？ <指導者>



●参加者の声

①生徒

- ・顧問の先生の負担が少なくなると思うから。
- ・幅広く交流ができる。
- ・完全移行ではなくていいと思う。

②保護者

- ・いつもと違う刺激があり、ありがたい。
- ・LINEで時間や予定等、細かく連絡してくれるので、親としては安心できる。
- ・もう少し練習させたい。

③顧問

- ・土日に休養をとったり、仕事をする時間充てることができた。
- ・土日両方休める日が増えた。
- ・地域クラブ活動の時間に自分の仕事ができる。

④指導者

- ・子ども達のスポーツ環境整備のためには必要だと思う。
- ・部活動を完全に地域移行するのは難しいと思う。学校と地域で協力しながら、部活動を継続していく形がいいと思う。

2.実証内容と成果③

広報資料

地域クラブ活動周知のためのセミナー

<内容>

・セミナー講演

NPO法人 新町スポーツクラブ（群馬県） 理事長 小出 氏

・パネルディスカッション

福岡大学 スポーツ科学部 教授 乾 氏

NPO法人 ふみの里スポーツクラブ 郡島 氏

宇美町スポーツ少年団 事務局長 丸山 氏

<対象者>

・保護者（一般参加者）

・小中学校教職員

・スポーツ関係者

<入場者>

約100名



スケジュール

10月27日（日）

時間：14:30～17:30（受付開始14:00）

場所：中央公民館大ホール

○セミナー講演

NPO法人 新町スポーツクラブ（群馬県）
理事長 小出 利一氏

○パネルディスカッション

福岡大学スポーツ科学部 教授 乾 真寛
NPO法人ふみの里スポーツクラブ 郡島 俊久
宇美町スポーツ少年団 事務局長 丸山 康夫

主催

宇美町地域クラブ活動
推進検討委員会
宇美町教育委員会

対象

小・中学校教職員・保護者
各スポーツ団体指導者
一般参加者

申し込み方法

各学校（教職員）・各スポーツ団体で取りまとめて10月15日（火）までに学校教育課へ提出してください。
一般参加者は申込不要です。当日会場にお越しください。



宇美町地域クラブ活動 推進検討委員会

メールでの申込み・お問合せは右記まで

お問合せ先
宇美町教育委員会
学校教育課

TEL：092-934-2245
FAX：092-933-9211

gakkou@town.umi.lg.jp

【セミナーチラシ】
（保護者・教職員・指導者向け）

出典：宇美町地域クラブ活動推進検討委員会

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【宇美中：陸上】



【宇美東中・宇美南中合同：サッカー】



【宇美東中：女子ソフトテニス】



【宇美南中：女子バレーボール】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年

運営主体、拠点校の選定

学校との調整
生徒・保護者への説明

地域クラブ活動
開始

令和5年

推進検討委員会
開始

令和6年

ガイドライン策定

令和7年以降

地域クラブ活動
拡大

- ・令和3年度にふみの里スポーツクラブと協議を進め、令和4年度より運営業務委託を開始した。
- ・学校と協議し、部活動の地域移行の必要性が高い部活動を選定した。
- ・指導者の確保を運営団体が行った。また、既存の外部指導者への声かけも行った。
- ・ふみの里スポーツクラブによる指導者研修を行った。

- ・保護者へ活動の周知を行うために、保護者説明会を各学校で実施した。
- ・PTA総会で保護者に対して、宇美町の取組の説明を行った。
- ・生徒、保護者への活動の周知は今後も続けていく必要があり、どのような方法がよいか模索している。
- ・活動が継続できるように町としても活動費等の予算を確保した。
- ・休日の活動を希望する顧問は地域クラブ指導者(兼職兼業)として活動を行った。

- ・推進検討委員会を開始し、活動方針の明確化を行った。宇美町ガイドラインは、令和6年度末に策定する予定である。また同委員会の中で、受益者負担の在り方の検討等を行った。
- ・指導者の質向上が課題となっており、今後は研修会や公認資格取得の促進を行う必要がある。
- ・活動の拡大のためには、運営団体や、指導者を増やしていく必要がある。
- ・ふみの里スポーツクラブだけでなく、スポーツ少年団やスポーツ協会等と連携して活動を推進していく必要がある。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

～令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度～
地域移行改革推進期間		地域移行準備期間		実行期間
3中学校 3 部活動 男子ソフトテニス（宇中） 女子ソフトテニス（東中） 女子ソフトテニス（南中）	3中学校 6 部活動 男子ソフトテニス（宇中） 陸上（宇中） 女子ソフトテニス（東中） サッカー（東中） 女子ソフトテニス（南中） 女子バレーボール（南中）	3中学校 ● 部活動 ・地域移行部活動数増 ・地域クラブ指導員の確保		3中学校部活動 ・地域クラブへ移行 ※指導者・運営団体の準備ができたところから、開始する。

今後の具体的な移行クラブ数は示さず、指導者や運営団体の確保ができ次第、随時、地域移行をしていくものとしている。
 （指導者の確保が足りていない現状で、具体的な移行クラブ数を示すと混乱を招く恐れがあるため。）

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

福岡県 篠栗町

自治体名：福岡県 篠栗町

担当課名：教育委員会教育課

電話番号：092-947-1380

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	総面積38.9 km ²
人口	31,240 人
公立中学校数	2 校
公立中学校生徒数	938人
部活動数	33部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	未策定

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

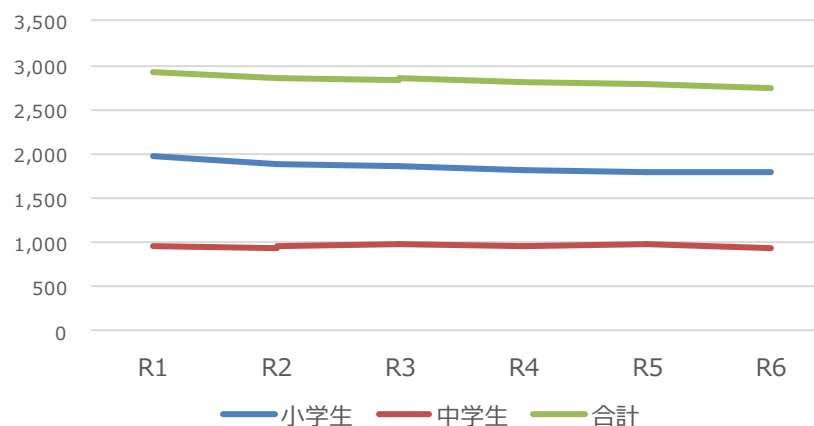
令和6年度に本町では篠栗中学校・篠栗北中学校陸上部において合同部活動の実証実験を実施した。令和5年度から各種団体と計5回の地域部活動準備委員会にて議論を重ね、本事業に応募することを決定した。

令和6年8月に全教職員対象に現行部活動に対するヒアリングを実施したところ「休日の地域連携」は「教職員の休暇取得」という点で非常に高評価であったほか、またこれまで無報酬で従事してきた地域指導者にとっても報酬の支出は高評価であった。

本町は大学やスポーツ活動団体を有する企業も存在しないため、スポーツ協会及び文化協会等の団体に頼らざるを得ない現状である。こうした状況下で最も重要であるのが「財源」と「人材」である。本町の財政は厳しい状況である。

教職員以外の地域指導者の掘り起こし、人材確保を同時に進めていかなければならないが、地域指導者の報酬支出、勤怠管理を含む自治体職員に対する財源があれば地域連携が加速していくが、財源がないため思うように進まず「教育格差」が発生する可能性があることが課題である。

篠栗町立学校児童生徒数の推移



【課題】

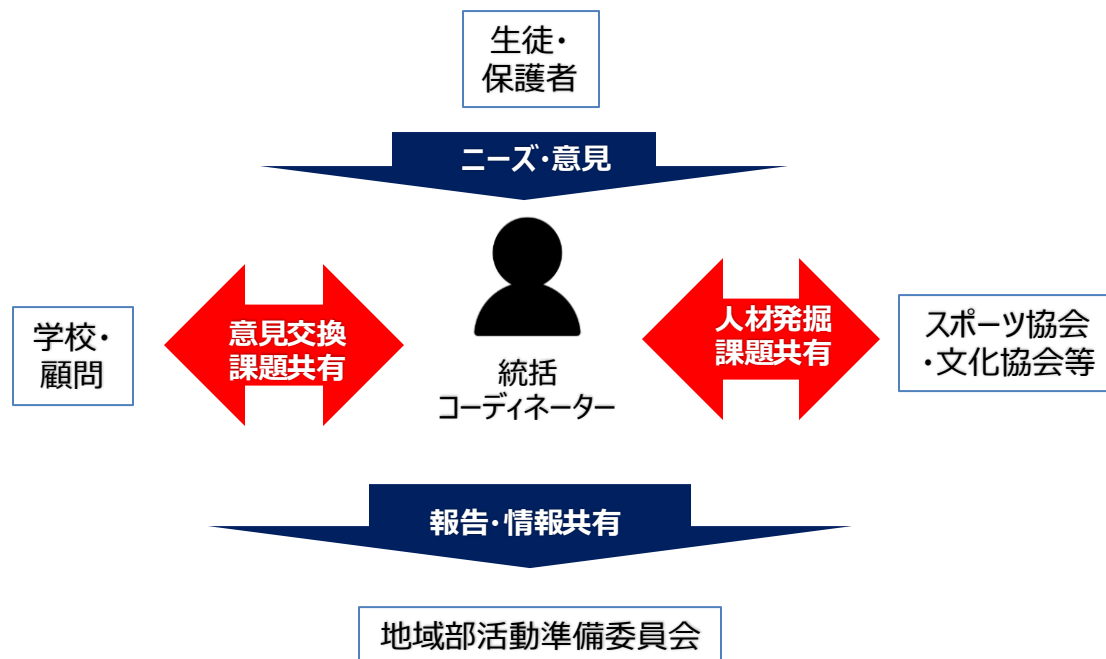
現在の篠栗町の出生数を鑑みると、人口推移は横ばいであるが、今後減少傾向は大きくなることが想定されるため、現段階で対策しておくことが重要となる。

出典:文部科学省提出 標準学級に関する調査

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・学校教育課…部活動改革の主幹、学校との調整・連携、学校に関する事項について
- ・社会教育課…地域スポーツ・文化活動の環境整備

◎首長部局

- ・財政課…予算措置

年間の事業スケジュール

令和5年度	計5回 地域部活動準備委員会 本事業に応募することを決定
令和6年5月	第1回協議会開催
令和6年6月	スポーツ推進委員会と地域人材の 掘り起こし・視察先の協議
令和6年7月	スポーツ協会と意見交換
令和6年8月	学校長・スポーツ推進委員 教育委員会による先進地視察 富山県黒部市・石川県能美市 石川県加賀市 視察 全部活動顧問へヒアリング
令和6年9月	令和7年度に柔道部・陸上部を 地域部活動のモデルと決定
令和6年10月	保護者への説明 第2回協議会の開催 スポーツ協会等への報告 指導者ガイドラインを決定

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2 校	実施した地域クラブ総数	1 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1 クラブ（1 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		該当・実施なし
全体の指導者数	4 人	全体の運営スタッフ数	4 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体 種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期 間	活動場所	指導 者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方 法
篠栗アスリートクラブ	地域指導者	陸上	月 ×12回 週 × 3 回	平日 18時から20時 まで 休日 3時間以内	3 年生 2 年生 1 年生	令和6年 4月から 令和7年 3月まで	主に 篠栗町総合 運動公園	4 人	4 人 (内、兼務 4 人)	年会費 14,000 円	中体連： 部活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績

●第98回～第101回東京箱根間往復大学駅伝競走（通称：箱根駅伝）に青山学院大学選手として参加し、第100回・101回大会に区間賞受賞、第98回・100回・101回の総合優勝に貢献した篠栗北中学校出身の太田蒼生選手と練習会を実施した。クラブに参加する生徒の精神的・技術的な成長に大きな成果があった。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- 広域的な活動を行う統括コーディネーターを1名配置し、関係団体・町との連絡調整・指導助言等を行う。
- 運営団体・実施主体の運営体制の整備や人材の確保など、持続可能な運営ができる組織体制の整備を行う。

取組の成果

- 統括コーディネーターを運営団体に配置したことにより、関係団体との連絡調整・会議運営等を円滑に行うことができた。
- 地域学校協働活動推進員やPTA等との効果的な連携を図り、運営団体・実施主体と中学校の連絡調整等を行うことができた。

コーディネーターの具体的な動きの実績

【コーディネーター】

- ・各クラブを巡回し連携可能な地域クラブに対しヒアリングを実施

今後の課題と対応方針

- 公的支援の対象とする地域クラブの基準がないため、今後、都道府県が示した地域スポーツクラブ活動の要件等を踏まえ、要件や基準等を調整して設定し、登録・指定等を実施する必要があると考える。
- コーディネート業務を担う人材の発掘・育成、資質向上を図る方策の検討を行う。

2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

本事業において、スポーツ推進委員、篠栗中学校長及び教育委員会事務局の3名で先進地（富山県黒部市・石川県能美市・加賀市）視察に行き現地職員から直接話を聞いたことが最も大きな成果であり、本町教育委員会が目指すべきイメージが描けたことは極めて有効であった。特に現場のトップである学校長が参加した功績は大きく、準備委員会においてもスムーズに議論が進めることが出来た。

令和7年度からスモールスタートで「平日は学校」「休日は地域」を目指し、「陸上部」のみならず「柔道部」も地域移行を行い学校内で実績を作った後、他の部活においても地域移行を進めていくこととする。

●成果の評価

組織のトップである学校長が先進地視察出来たことは最も大きな成果であり、スポーツ推進委員が参加することにより地域代表の視点から、地域でできる事とそうでない事をイメージできたことも成果である。

自治体内に実証した地域クラブ（陸上部）が1つでも存在することは大いに評価できる。

●今後に向けて

教職員の負担を減らし、持続可能な部活動とするため、まずは「平日は学校」「休日は地域」を目指し検討を重ねていく。

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【練習風景】



【体験会の実施】



【地域クラブとして大会に参加】



【指導の様子】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



ステークホルダー

学校、スポーツ協会、競技団体
町教委、コーディネーター

経過

令和4年度より検討委員会を設置し、毎回長時間、多くの回数会議を重ね本実証事業に取り組む事を決定した。令和6年度は、コーディネーター、指導者、行政等で組織する連絡協議会を設置し、本町において地域連携が可能な地域クラブの調査、学校長との協議、クラブ活動のガイドラインの作成を進めた。

実施内容

4月からは篠栗北中学校の生徒が、篠栗中学校の生徒とともに地域クラブ活動へ参加する試験的な取組を開始した。

実施にあたって生じた課題

休日のクラブ活動において、教職員及び保護者との情報共有・連携が困難であった。財源・人材確保が大きな課題であり財政的に厳しい本町では補助事業が消滅した場合に地域クラブが継続可能か不透明である。

今後の展開

令和7年4月からは、他に実施可能なクラブを模索し更なる地域連携を進めていく。